

(資料)

REFRANERO ESPAÑOL (45) スペインの諺辞典

Bernardo Villasanaz*(ed.)

新 井 藍 子**

1616. Trabaja como si siempre hubieses de vivir, y vive como si luego hubieses de morir.

いつまでも生きられるかのように 仕事をしなさい
すぐに死ぬかもしれないように 生きなさい

- 仕事は、長期の計画を立てて、人類に貢献できるような大きく立派なものを目指しなさい、生きることは、今日限りの命と思って毎日を大切に生きるとおしえてくれる。いつの時代にもどこの国でも通用する哲学的な格言。
- 人の命のはかなさを比喻したものには次のようなものがある；“人生朝露の如し”，“末の露本の雫”（葉の先の露と根元の雫は、早い遅いの差はあっても結局ははかなく消えてしまう、人の命も短い、長いという差はあってもいつかは尽きてしまう—新古今集），“浮生夢の如し”（浮生とは、はかない人生のこと—李白・春夜従弟の桃李園に宴するの序）など。また、旧約聖書、詩編（103-15-17）“La vida del hombre es como la hierba; 人の生涯は草のよう brota como una flor silvestre: 野の花のように咲く tan pronto la azota el viento, deja de existir, 風がその上に吹けば、消えうせ y nadie vuelve a saber de ella. 生えていた所を知る者もなくなる。”は、切々

* Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.

** Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

とわれわれの胸にあとかたもなく消えてしまう命のはかなさをうったえてくるのである。人の一生というものはこのように短い、それでもなお“虎は死して皮を留め人は死して名を残す”（十訓抄），“人は一代名は末代”（毛吹草），“骨は朽ちても名は朽ちぬ”などがおしえてるように、名声、功績が後世までも残るような生き方、仕事を心掛けなさいと言っている。

1617. Trabajos, y a la vejez andrajos.

あんなに働いたのに 老後は裸同然

- 努力したにもかかわらず報われず、成果を収められなかったたとえ。（パロス）
- 若い時に怠けていたので、年をとってから困窮するという意味のことわざは以下のようすでいくつも見えてきた；“A mocedad ociosa, vejez trabajosa. 若い時の楽は、年とってから苦”（筆者の諺辞典、諺60を参照），“La mocedad holgada trae la vejez trabajada. 若い時に怠けていたら、年とってから苦労する”（同諺辞典、諺946を参照）など。こちらの方は、自己責任で納得がいくが、見出しの諺は、働いても老後が保障されないという社会への批判である。いつの時代でもどこの国でも適用することわざである。先進国といわれている国々でも老後は安心出来ない時代に突入している。寿命が伸びたからである。また、他方では、一生懸命働いても、その日その日を食べていだけで精一杯で、老後の蓄えができないという低賃金の仕事も増えている。
- これら上記の三つの諺は修辭的にもよく工夫されている；“Trabajos—andrajos”，“ociosa—trabajosa”，“holgada—trabajada”などと、それぞれ脚韻を含み、また、名詞は名詞と、形容詞は形容詞で合わせて、語呂の響きをよくしている。
- 同義のこちらの諺には、“稼ぐに追い抜く貧乏神”があり、反義には“稼げば身立つ”，“稼ぐに追い付く貧乏なし”などがある。

1618. Trae la bolsa abierta y entrarásete en ella la sentencia.

財布の口開ければ そこで判決が下される

- 金は、いかに公正であるべき行為をもねじ曲げることができるかということ。（パロス）裁判官のかなりの者が収賄を行っているという事実を非難している。（スバルビィ）
- 金の威力がどれくらい強いかを言う。類義の諺には、“El dinero es caballero. 金持

てば殿様” (筆者の諺辞典, 諺 420 を参照), “El dinero hace lo malo bueno. 金は悪いことも良いと見なす”, “El que tiene padre alcalde, seguro va al juicio. 親を村長に持つ者は, 堂々と裁き所に行く” (同諺辞典, 諺 510 を参照), “No hay cerradura, si es de oro la ganzúa. もしこじ開け道具が金なら, 閉める鍵はない” (同諺辞典, 諺 1112 を参照) などがある。

- 日本の諺でも金の威力の強さを謳っているのがごまんとあるが, その中でも見出しの諺とぴったりなのが“地獄の沙汰も金次第”であろう。

1619. Traer alguna cosa por los cabellos.

こじつける

- 成句で, スバルビィ (諺辞典) によると, ある事柄に, 全く関係がないような判例, 格言, 状況, 或いは出来事などを乱暴に当てはめてみたり, 挿入したりすることをいう。
- スペイン王立アカデミー辞書: ある事を論証するのに, それとは関係のない事柄をもってくること。
- 例題: ドン・キホーテ第二部 67 章, サンチョとドン・キホーテの間でたくさんの諺がくりだされる, そして口論が始まる, 自分のは指輪が指にはまるように, びたりとはまるが, おまえときたらと, ドン・キホーテがこう続ける, “... ; pero tráelos tan por los cabellos, que los arrastras, y no los guías; ... 毛筋ほどのところを引っかけて, 強引にひきずり出すのでな, うまく操れないのじゃ。(続編三, 高橋正武訳)
注: 見出しの成句の直訳は“髪を毛を引っぱって, 或る事柄をもってくる” — 筆者
- 類義のこちらの言い回しには“木に竹を接ぐ” (鷹筑波集) がある, “故事ことわざ活用辞典”には, 上記の表現の他にも異表現として“木に竹”, “竹に接ぎ木”が見られる。それによると, 性質の異なる物を無理につなぎ合わせる意から, 不調和なこと, 前後のつじつまが合わないこと, 物事の道理が通らないことをたとえている。

1620. Traición (La) aplice, mas no el traidor que la hace.

裏切りは喜ばれるが 裏切り者は憎まれる

- 裏切り行為というものは, それが必要な時には喜ばれるが, 一度遂行されれば, 裏切り者は嫌忌されるのが常である。というのもそれを頼んだ本人自身が, 裏切り者を信

用出来ず、いつ同じように裏切られるかもしれないという猜疑心からられるからである。(バロス)

- 同義の諺には “Págase el señor de la traición, mas no de quien la hace. 裏切りには満足しても、裏切り者には満足しない” (筆者の諺辞典, 諺 1234 を参照), “Consumada la traición, no es necesario el traidor. 裏切りさえ成就すれば、もはや裏切り者には用はない” (バロス諺集), “Págase el señor de la chisme, mas no de quien la hace. 告げ口には満足しても、告げ口屋には満足しない”, “Págase el rey de la traición, mas del que la hace no; mas de quien la hace no. 王様は裏切りには満足しても、裏切り者には満足しない” (コレアス諺集) などがある, また, 類義の諺には “A un traidor, dos alevosos. 一人の裏切り者には, 二人の裏切り者で” (対抗せよということ。人を裏切ったような悪い奴には, それ以上の仕返しを待ちうけている—スバルビィ諺辞典, 筆者の諺辞典では, 諺 112 を参照して下さい) がある。
- 例題: ドン・キホーテ第一部 39 章, <捕虜の話の章>の中で, こう捕虜が話す; 裏切り行為でトルコ軍の敵の首をトルコ艦隊の提督にアラビア人が持参した, すると, 提督は, アラビア人どもに “....., el cual cumplió con ellos nuestro refrán castellano: <Que aunque la traición aplace, el traidor se aborrece> ; y así, se dice que mandó el general ahorcar a los que le trujeron el presente, ...わがイスパニヤの諺のくうらぎりは喜ばれても, うらぎり者は憎まれる>を思い知らせました。すなわち, 提督は,, 献上物の持参者どもを絞首刑にしたということです。” (正編三, 永田寛定訳)

1621. Traslucirse como hijo de clérigo.

僧侶の息子だと ばれる

- コレアス (諺集) によると, この諺は, 口さがない世間の連中には, 甥として育てられている子供が, 本当は僧侶自身の息子であるというしるしがあちらこちらで見えるということを言う。“Traslucirse - echarse de ver と同義で ~に気づく, 注目する” また, バロスによると, 僧侶の息子を甥とか何とか呼んでいる嘘の形跡がちらちらと見え隠れすることを言う。
- スペインの諺には, キリスト教 (カトリック) の僧侶の強欲さ, 淫乱に対して痛烈な

批判をしているものが多いが、それもその一つである。カトリック教の僧侶は結婚できないので、もし子供などができたら大変である。見出しの諺のように甥とか姪とか嘘について隠そうとするが、こういうことにはいつでも嗅覚の鋭い世間の目をごまかすことは到底難しい。すぐばれてしまう。

- こちらにも僧侶を批判したものが次のようにある；“頭剃るより心を剃れ”，“袈裟と衣は心に着よ”（形だけ整えても心に道心がないのではなんにもならない，広い意味では，全ての人に適用される），“坊主丸儲け”など。

1622. Tras mala procura viene la mala ventura.

怠慢は 悪運をもたらす

- 何事にも無精で怠惰であるなら，人は困窮に落ち入るであろう。コレアス（諺集）によると，アラゴン（スペインの北東部の地方）では，人は商売に精を出し，ガリシア（スペインの北西部の地方）では，（何事にも）人は勤勉で一生懸命だそうである。
- 類義の諺には“La diligencia es madre de la buena ventura. 勤勉は，幸運の母”（筆者の諺辞典，諺 417 を参照）がある。
- 形式については，“mala-procura, mala-ventura”と脚韻をきれいにそろえ，語呂合わせもよい。
- こちらの類義の諺には，“夏歌う者は冬泣く”，“まだ早いが遅くなる”，“蒔かぬ種は生えぬ”などがある。

1623. Trasquilar a cruces.

毛髪を十字に刈りこむ

- 侮辱すること。コレアスによると，ものを台無しにする，人を痛めつけ，害を及ぼすこと。
- コバルビアス（宝典）によると，昔，二度結婚したものに対して宗教的な法律により科せられた罰である。髪をこのように刈られるということは大変な不名誉であり，貴族の間では死と同等であった。スペインでは，西ゴート族（イベリア半島に侵入した西ゴート族は 414 年に西ゴート王国を建て，スペインの大部分に領土を拡げた。6 世紀にはローマを駆逐したが，711 年にアフリカから侵入したイスラム教徒に滅ぼされた）の間でこのような刑罰が行われていたそうである。

- 例題：セレスティーナ第17幕、女の罠にかかったのも知らずに、もし自分が誰かに御主人さまの秘密を打ち明けるようなことがあれば、“..., que me trasquilen a mí a cruces. ...俺の頭は罪人にするように十字に刈りこまれたっていいさ”（魔女セレスティーナ、大島正訳）と使用人のソシアが言う。注：“Trasquilar a cruces—cortar el pelo sin orden—髪をでたらめに刈ること。中世では不敬な者に与えた拷問—Bruno Mario Damiani, La Celestina, Cátedra.

1624. Trasquílenme en concejo y no lo sepan en mi casa.

皆の前ではののし罵ってくれ

だけど 家の者には黙っていてくれ

- あちこち他所の場所では、恥になるような事をしているのに、家庭とか、親類の間では、それを一生懸命隠そうとする者をいう。（スバルビィ）
- コレアス諺集、コバルビアスの“宝典”には、“trasquilar”の古語“tresquilar”で次の異表現“Tresquílenme en concejo y no lo sepan en mi casa. 同訳”が見られる。
- スペイン語辞書（マリア・モリネール）：口語的な意味では、名声を汚したり、失墜させる目的で、ものの一部を奪ったり、削ったりすること。
- 例題：セレスティーナ第14幕、奉公人が殺傷沙汰を起こし死刑になったことで奉公人が減り、また汚名をこうむったのに、自分は無為無策であったと嘆くカリストが、格言を口にしてこう言う、“¿A quién descubriré mi mengua? ¿Por qué lo celo a los otros mis servidores y parientes? <Tresquílenme en concejo, y no lo saben en mi casa.> 誰にこの不名誉な損失を打ち明けようか？それがしは、ゆかりのある者や他の召使どもに、なぜことの次第を隠すのか？外ではそれがしの悪名が高くなって、家の中では知られてはおらぬ。”（魔女セレスティーナ、大島正訳）注：ここでは古い表現“Tresquílenme...”が使われている。コレアス諺集にも“Tresquílenme...”と一緒に“Tresquílenme...”が見られるが、現代の表現である見出しの“Trasquílenme...”は見られない。一筆者

1625. Tras tormenta, gran bonanza.

嵐の後には 大嵐

- 世の中、及び人の運の移り変わりの早さをたとえている。
- 同義の諺は次のように多数ある；“A gran seca, gran mojada. 大日照りの後には、大雨”（筆者の諺辞典、諺 23 を参照），“A tres días buenos, cabo de mal extremo. 三日間の晴れの後に、最悪の天候の始まり”（同諺辞典、諺 102 を参照），“Buen comer trae mal comer. 今日のごちそう、明日の飢え”（同諺辞典、諺 163 を参照），“El día del placer, vispera es del pesar. 今日の快樂は、明日の苦痛”（同諺辞典、諺 406 を参照），“Día de mucho, vispera de nada. 今日の浪費は、明日の無一物”，“El día de ayuno, vispera es de santo. 今日の断食、明日の祝日”，“No fíes de la fortuna, mira que es como la luna, 幸運を信じるな、ほら、月みたいだから”（同諺辞典、諺 1100 を参照）など。
- コレアス諺集には、見出しの諺とともに、その反対の “Tras bonanza, gran tormenta. 快晴の後には、大嵐” がでている。
- 人の世の有為転変、人の禍福の移り変わりの早さ、人の一生の浮沈、盛衰などは、諺が好んで取り上げるテーマの一つである。スペインでも日本でもすでに見てきたようにいろいろな比喻を駆使してそれを言い表してきた。その中でも実際に変化の激しい天候、自然、植物などが多く用いられている。“昨日の淵は今日の瀬”，“沈む瀬あれば浮ぶ瀬あり”，“朝顔の花一時”，“昨日の花は今日の塵”，“飛鳥川の淵瀬”，“世の中は三日見ぬ間の桜かな” など。

**1626. Trata con el enemigo como que en breve haya de ser amigo,
o con el amigo como si hubiese de ser enemigo.**

敵に対するときは あたかもすぐに友となるように

友に対するときは あたかも敵であるかのように

- そう接すれば、敵に油断させることができ、いたずらに警戒心を抱かせることもなくなる、また、われわれを取りまく状況が変化すれば、友になりうることもある。友に対しては、一歩距離をおけば礼を失することもなくなるし、過度の信頼を寄せるといふこともない。友だからといって何時敵に回るか誰も分からない。

- この諺は、今までわれわれが敵や友に接してきた態度と反対のことをせよとおしえてくれるのである。則ち、しょっちゅう気にかけて警戒しているのが憎い敵で、友のことはあまり気かけないし心を許すすぎている。今まで筆者の諺辞典で取り上げてきた敵と友についての諺を見てみると、見出しの諺の意味がはっきりとしてくるであろう；“Al amigo, con su vicio, se le debe querer y atender. 友のことは、欠点も好きになり、気かけよ”（筆者の諺辞典、諺 30 を参照），“Duerme con tu enemigo y no con tu vecino. 敵と眠れ、隣人はほっとけ”（同諺辞典、諺 457 を参照），“La envidia del amigo, peor es que el odio del enemigo. 友のねたみは、敵の憎悪よりこわい”（敵には常に用心しているが、友には気をゆるしている。だから、思いがけない時に裏切られて酷い目にあう—同諺辞典、諺 570 を参照、これに対して、標題の諺がこういう風にせよとおしえてくれるのである），“Más vale dejar en la muerte al enemigo, que pedir en la vida al amigo. 死を敵にゆだねる方が、生きて友に助けを乞うよりまし”（同諺辞典、諺 872 を参照），“Más vale el ruego del amigo que el hierro del enemigo. 友の頼みは、敵の刃より強い”（人のやさしい、柔らかな態度は、厳しさとか脅しよりずっと効力があるということ—同諺辞典、諺 875 を参照、標題の諺がまさにおしえているように、特に敵に対して穏やかに、親し気に接すると効力がある），“No busques en el amigo riqueza, ni nobleza, sino buena naturaleza. 友には、善良さだけで、富とか家柄は求めるな”（同諺辞典、諺 1063 を参照），“No hay amigo para amigos: las cañas se vuelven lanzas. 友に友などない、葦も槍となる”（同諺辞典、諺 1108 を参照），“No hay mejor espejo que el amigo viejo. 旧友ほど良い鏡はない”（長年のつき合いがある友は、相手のためなら耳に痛いようなことでもはっきり言ってくれる—同諺辞典、諺 1130 を参照）など。
- こちらには、人間の絆の不確かさ、脆さを突いた諺“昨日の友は今日の仇”，“昨日の友は今日の敵”がある。理想的なつき合いは“君子の交わりは淡きこと水の如し”であろうか。

1627. Tripas llevan corazón, que no corazón tripas.

腹わたが心臓を支えるのであって
心臓が腹わたを支えるのではない

- 気力、体力をみなぎらせるための最良の方法は、栄養を充分にとることである。（ス

バルビィ)

- 次のような異表現 “Tripas llevan pies, que no pies tripas, o tripas llevan corazón, que no corazón tripas. 腹わたが足を運ぶのであって、足が腹わたを運ぶのではない、或は、腹わたが心臓を支えるのであって、心臓が腹わたを支えるのではない” がスバルビィ諺辞典に、また “Las tripas estén llenas, que ellas llevan a las piernas. 腹を満たせば、腹わたが足を運んでくれるから”, “Las tripas llenas, ellas llevan a las piernas. 満ち足りた腹わたが、足を運んでくれる”, “Tripas llevan piernas, que no piernas tripas. 腹わたが足を運ぶのであって、足が腹わたを運ぶのではない”, “Tripa vacía, corazón sin alegría. 空っぽの腹、喜びのない心” などの異表現が、コレアス諺集にそれぞれ収載されている。
- 例題 1: ドン・キホーテ第二部 34 章、公爵を相手によい太守についてサンチョが数々の諺で蘊蓄を披露する、そのうちの一つがこれである, “...., y tripas llevan pies, que no pies a tripas; quiero decir que si Dios me ayuda, y yo hago lo que debo con buena intención, sin duda que gobernaré mejor que un gerifalte.腹わたが足を活かしとくで、足が腹わたを活かしとくじゃねえでさ。つまりね、わしが神様に目えかけられて、しなけりゃならねえことをまじめにする段になったら、けっこう上手に統治してみせまき。” (続編二, 永田寛定訳)
- 例題 2: ドン・キホーテ第二部, 47 章、敵と戦うためにはまず腹ごしらえと、サンチョが諺を引用する, “...., no puedo pasar sin comer, y si es que hemos de estar prontos para estas batallas que nos amenazan, menester será estar bien mantenidos, porque tripas llevan corazón, que no corazón tripas.ふんとに、食わずにやすまされん。それに、合戦がせまって々、用意をせにゃならんとすりゃ、肝要なは腹ごしれえじゃ。人間の芯は臓腑のなかにあるんで、芯のなかに臓腑があるんでねえ。” (続編三, 高橋正武訳)
- 空腹ではよい働きはできないから、まず腹ごしらえをしてかかれというスペインの諺と同義のこちらの諺には“腹が減っては戦ができぬ”がある。仕事の前の腹ごしらえのせりふに現在でも使われている。見出しの諺が人間の体の中心を腹に置いているように、日本語の表現にもそれを言い表しているのが次のようにいくつかある；“腹が据わる”は<物事に動じない, 覚悟する>、“腹に一物”は、<心にたくらみをいだいていること>、“腹を括る”は、<覚悟をきめる>、“腹を探る”は、<なにげない

ようすで人の心の中をうかがう>，“腹を割る”は、<本心を打ち明ける>など、確かに、サンチョが言うように“人間の芯は臓腑のなかにある”と思わせる表現ばかりである。

1628. Triste de la casa donde la gallina calla y el gallo canta.

めんどりが黙り おんどりが歌う家は 哀しい

- 家庭内の夫と妻の力の関係を言う。夫が妻を、妻が夫を支配しているような同等ではない家庭は、暗く、楽しくないであろう。
- 反対の諺がスバルビ諺辞典に次のようにある，“Triste de la casa donde la gallina canta y el gallo calla. めんどりが歌い，おんどりが黙る家は哀しい”（夫の役割を妻が果たしているような家はうまく管理されない—スバルビ）また，コレアス諺集には，異表現“Triste de la casa donde la gallina calla y el gallo canta; pero es mejor al contrario. めんどりが黙り，おんどりが歌う家は，哀しい，けれど，その反対よりはましである”がある。
- 筆者の諺辞典には，夫と妻に対しての忠告が述べられている諺が次のように見られる；
“El consejo de la mujer es poco y el que no lo toma es loco. 女の忠告は，たいしたことはないが，耳を貸さぬは，馬鹿者”（諺 291 を参照），“En casa de Gonzalo, más manda la gallina que el gallo. ゴンサーロの家では，めんどり唱えて，おんどり随う”（かかあ天下の家を批判している—諺 526 を参照），“Muéstrame a tu mujer y decirte he qué marido tien. 妻を見れば，どんな夫かわかる”（妻は，夫の性格，教養を忠実に反映している—諺 989 を参照），“La mujer artera, el marido por delantera. 利口な女は，夫の後ろに隠れて”（諺 991 を参照）など。
- 日本にも同じめんどりという比喻を用いて“雌鳥うたえば家滅ぶ”（妻が夫をさしおいて権勢を振るうようになると，家運が衰えて滅びるというたとえ—故事ことわざ活用辞典），“雌鳥に突つかれて時をうたう”などの諺がある。どちらの諺も威張っておんどりに指図しているめんどりを非難している。

1629. Triste es el que goza solo lo que tiene, sin que lo vea ni sepa quien bien quiere.

ひとりで持っているものを楽しむ者は 哀れである

- 一緒によろこんでくれる人を知りもせず、見ることもなくひとりでうれしがるのは寂しいということ。喜びというものは、他の人と分かち合うことでより一層大きな喜びを感じるからである。
- 類義の諺には “Más vale un poco de pan con gozo, que la casa llena de riqueza con descontentamiento. パンが一片しかなくとも喜びがあれば、富で家を満たして争うよりよい” (夫婦仲がよかったり、愛に満ちあふれた家族ならば、たとえ貧しくとも幸せである—筆者の諺辞典、諺 905 を参照) がある。
- こちらには、人に分からないよにこっそりと隠れて自分だけが得をすることをたとえた諺 “雪隠で饅頭” とか “雪隠で米を噛む” などがある。“雪隠” は現在のトイレのことである。誰にも見られないようにこんな所でおいしいものをひとりで食べるのは本当に哀れである。

1630. Tu camisón no sepa la intención.

寝巻きは 下心をおしえるな

- 計画していることは、自分の胸にしまって誰にも話すな、公表するなど、慎重であることを勧めている。
- バロスによると類義には, “Cuando tú ayudes a los necesitados, que no sepa tu mano izquierda lo que hace la derecha. 施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない; hazlo en secreto. あなたの施しを人目につかせないためである” (新約聖書, マタイ 6-3-4) がある。これはイエスが山に登られて大勢の群衆に向かって語られたおしえ、<山上の説教>として知られている中の一つ <施しをするときには>にでてくる有名な言葉である。
- 標題の “camisón” は、スペイン王立アカデミー辞書によると、“女性が寝るときに着るゆったりとした衣で、足下までを覆う、つまり、日本語ではネグリジェのようなものである。このネグリジェは、薄い衣で体が透けて見えるところから、人目につかせないようにというたとえとしてここでは用いられているのであろう。”

- 口を慎むようにという諺はこちらにもたくさんあるし、すでに何度も引用してきた、“口から出れば世間”、“囁き千里”などは、ちょっと口をすべらせただけであつという間に大勢の人に知られてしまう恐さを謳っている諺である。

1631. Tú vas a Roma a buscar lo que tiene a tu umbral.

戸口にあるものを捜しに ローマまで行く

- 近くでも見つかる仕事とか利益を求めてわざわざローマまで行く者を言う。(コレアス) 家にあるものを軽侮して、より劣っているものをわざわざ外に捜しに行く者をいう。(パロス)
- すでに今まで筆者の諺辞典(諺 95, 諺 139, 諺 209, 諺 327, 諺 1172, 諺 1366, 諺 1376を参照して下さい)で見えてきたように、古代ローマの全盛期には、世界各地からローマへ道が通じていて、あらゆる人々が大都市であったローマへ成功、立身出世を求めてやって来た。しかし、その旅は決して楽ではなく難儀を極めた。“Camino de Roma, ni mula coja ni bolsa floja. ローマへの旅は、びっこのラバも、空っぽの財布も、持っていくな”(諺 209)、“A Roma por todo. 万難を排して”(諺 95)などの諺がそれを端的に表わしている。こんなに苦労してやっと来たローマで成功できたのは、ほんのひと握りの運の強い者だけであつたろうことは容易に想像できる。他の大勢の若ものはどんなに落胆したことであろうか。そして自分たちが出てきた町にも同じように金を稼げる仕事があつたことに思っていたのである。道中でなければなしの金を全て使ってきてすっからかんの身では直ぐに戻ることも出来ない。そういう経験をした者たちがこれからローマに行こうと考えている者への警告が標題の諺である。
- 類義の諺には、“María, si bien estás, no te mudarás. マリア、もし幸せなら、変化を求めないで”(今していることをそこで続けなさい、そこに留まりなさいということ—筆者の諺辞典、諺 825を参照)、“Bien se está San Pedro en Roma. 聖ペトロは、ローマに居れば安全”(今の状態より悪くなりたくなければ、自分が今居る場所を変えたり、仕事を変えたりするべきではない—諺 139を参照)などがある。
- 誰でも大都会に憧れて出奔するのは、“故郷に錦を飾る”(南史)、“故郷へ錦を着て帰る”、“故郷へ花を飾る”などの諺が言うように、立身出世して成功したところを故郷の人々に見せつけるためであろう。小さな町では成功してもたかがしれている。古今東西、これからも変わらぬ現象であろう。

U

1632. Último (El) mono es el que se ahoga.

しんがりの猿が 溺れる

- 利益を生む企てに加わる最後の者は、あまり利益には恵まれないことが多い、というのも、それ以前にすでに他の者たちがそれを手に入れてしまっているからである。比喩の猿について言えば、集団の猿が川を渡る場合、数珠繋ぎに次々と一番川に近い木の枝にぶら下がってみんなで弾みをつけては上にいる猿から向こう岸に渡っていくのであるが、最後の猿は、たいていの場合、渡りつくのが困難で川に溺れてしまうのである。(スバルビィ) 常に一番弱く、劣っている者の上に不幸が襲いかかるものであるということ。(バロス)
- スペイン王立アカデミー辞書：“ser alguien el último mono” とは、口語的表現で “つまらない人、どうでもいい人”
- 中米パナマの諺研究家 Luis Aguilera によると、楽道家のパナマ人は、標題のスペインの諺から “El último mono nunca se ahoga. しんがりの猿は、決して溺れない” という諺を作りだしたそうである。
- スペインにも “Grulla trasera pasa a la delantera. いちばん後ろの鶴が、いちばん前が出る (後の雁が先になる)” (急いだからといって最初にゴールに到着するとはかぎらない—筆者の諺辞典、諺 624 を参照) のような諺がある。後から行った者が先の者を追い越したり、学識、財産、権力、地位、力量などで遅れをとっていた者が先にいる者を追い越すことができることを謳うかなり楽天的なことわざである。また、同じ意味で新約聖書 (マタイによる福音書 19-20) には、こう記されている章句がある “Pero muchos que ahora son los primeros, serán los últimos; y muchos que ahora son los últimos, serán los primeros. しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。”
- 日本には、勢力のない弱小な者ばかりが罰を受けて酷い目にあうという “皿嘗めた猫が料ちかを負う”，“米食った犬が叩かれずに糠食った犬が叩かれる”，“笹を嘗めた犬が咎かぶる” などの諺がある。また、先を争って自分だけが得をしようとする者を戒める

ことは“残り物に福がある”がある、同時にこれは、“故事ことわざ活用辞典”によると、残り物を手にする人への慰めのことばとして用いられているそうである。類義には“余り物に福がある”，“慌てる乞食は貰いが少ない”，“余り茶に福あり”などがある。

1633. Una aceituna es oro; dos, plata, y la tercera, mata.

オリーブの実は、一粒は、金 二粒は、銀
三粒目は、消化不良

- オリーブの実は、食べ過ぎると消化不良をおこすのでほどほどにするのが良い。(パロス) そこから、何事もやり過ぎるのはよくない、節度をもって行動するべきであるの意。
- “宝典”(コバルビアス)には、“Azeytuna, oro es una, dos plata y la tercera mata. 同訳”が収載されている。
- コレアス諺集には次のように多数の異表現が見られる；“Una aceituna es plata, dos son oro y la tercera lodo. オリーブの実は、一粒は銀、二粒は金、三つ目は泥”，“La aceituna una, dos mejor y tres peor. オリーブの実は、一粒はまあまあ、二粒は美味しい、三粒は消化不良”，“Aceituna, una es oro; dos, plata, y la tercera mata. オリーブの実は、一粒は金、二粒は銀、三粒目は消化不良”(これは真実である—コレアス)，“Aceituna, una es plata; dos son oro, y tres son lodo. オリーブの実は、一粒は銀、二粒は銀、三粒は泥”(こういう意見もある—コレアス)，“Aceituna, una. オリーブの実は、一粒が最高”(たくさん食べるのは良くない、病気になる—コレアス)など。
- イリバレン(格言の由来)は、Ricardo Palma(Tradiciones peruanas—ペルーの伝承)を引用して“Aceituna, una. オリーブの実は、一粒が最高”の由来について次のように説明している，“盛大なパーティとか晩餐会では、招待者は常に客に対してオリーブの実は<Caballeros, aceituna, una. 紳士諸君、オリーブの実は一粒が最高>という口上とともに一粒ずつしか供しなかった。というのも、まだこの頃はオリーブの実は少量しか栽培されていなかったで、非常に値段が高かったのである。しかし、1565年になると、オリーブの実の値段も少しは安くなり、客に三粒ずつは供することができるようになった。”このペルーの民間伝承によると、オリーブの実を少

量しか食しない理由は、健康のためというより値段によるものようである。ちなみにスペイン人が16世紀にスペインからオリーブの挿し木苗をペルーにもっていったからペルーでも栽培されるようになった。

1634. Una aguja para la bolsa y dos para la boca.

財布は一本の縫い針で 口は二本の縫い針で

- しっかりと閉じよ。消費はするな、無駄口は叩くなどおしえている。(筆者) 常に用心深く、且つ口を慎むのがよい。(バロス)
- 財布の口も、人の口も縫い針でしっかりと閉じていけば無駄な金も使わず、言わずもがな事も言わないですむ。
- 今までにも用心深さと余計なことは言わないようにおしえてきた諺を次のように多数みてきた。人が人生の途中で失敗するのもそれらを怠ってきたことが多いからである。口をすべらせ適切でない発言をして何人もの政治家がその地位を追われてきたのは周知の事実である；“Boca cerrada, más fuerte es que muralla. 閉じた口は、城壁より堅固である”(筆者の諺辞典、諺144を参照)，“En boca cerrada no entran moscas. とじられた口の中に、ハエは飛びこまぬ”(同諺辞典、諺520を参照)，“Mucho hablar, mucho errar. 言葉多ければ、間違い多し”(同諺辞典、諺969を参照)，“Palabra de boca, piedra de honda. 口から出た言葉、ぱちんこではじいた石”(どちらも戻ってこない、同諺辞典、諺1244を参照)，“La piedra y la palabra no se recoge después de echada. 石と言葉は、放った後では拾えない”(同諺辞典、諺1316を参照)などの諺は、人というものは、常に慎重に考えながら話せとおしえているのである。異表現には“Un nudo a la bolsa y dos a la boca. 財布には一本の結び目、口には二本の結び目”(を作ってしっかりと閉じよ、同諺辞典、諺1651を参照)がある。
- 日本でも同じように“言いたい事は明日言え”、“腹の立つ事は明日言え”、“月日変われば気も変わる”などと、すぐその場で思いついたことを感情的にべらべら喋るかわりによく考えてから話せば、失敗しないと言っている。

1635. Una buena capa todo lo tapa.

上等なマントは あらゆるものを 覆う

- 外見がいかに大事であるかをたとえて言う。(パロス) 風采がよければ欠点を隠すことができるということ。
- 同義の諺はすでに次のように見てきた；“Botas y gabán esconden mucho mal. ブーツとコートは、貧を隠す”(立派な外見は、中身の貧しさを隠すことができる、筆者の諺辞典、諺 149 を参照)，“El buen traje encubre el mal linaje. 立派な衣装は、お里を隠す”(同諺辞典、諺 168 を参照)，“Debajo del buen sayo está el hombre malo. 上等な衣の下に、悪党がいる”(みせかけは立派な紳士ようであるが、心は野卑である、同諺辞典、諺 380 を参照) など、まだその他にも多数ある。反義の諺“Bajo una mala capa se esconde un buen caballero. みすばらしい衣の下に立派な紳士がいる”(外観はみすばらしいが、こころは美しく、慈悲深い、同諺 380 を参照) もある。
- 日本にも、同義、類義の諺が以下多数ある；“錦の袋に糞を包む”，“頭巾をみせて頬かむり”，“藁人形も衣裳から”，“浮世は衣裳七分”，“馬子にも衣裳” など。

1636. Una continua gotera horada una piedra; o la piedra.

絶えまぬしづくは 石をもうがつ

- 微力であっても、忍耐強く、たゆまぬ努力を続ければ大きな成果を得られるということ。
- すでに次の異表現が筆者の諺辞典には収載されている；“Continua gotera, horada la piedra. 絶えまぬしづくは、石をもうがつ”(諺 297 を参照)，“Dando la gotera, hace señal en la piedra. 水したたりて、石うがつ”(諺 372 を参照) など、また、同義の諺には“Gota a gota, la mar se agota. 一滴一滴、海は尽きる”(少しづつでも辛抱強く続ければ、いつかは目標に達することができる、筆者の諺辞典、諺 619 を参照)，“Un grano no hace granero, pero ayuda al compañero. 塵も積もれば、山となる”(同諺辞典、諺 621 を参照)，“Muchos pocos hacen un mucho. たくさんの小さなものも、大きなものとなる”(ほんのわずかな物でも、積もりつもれば莫大なものとなる、同諺辞典、諺 976 を参照)，“La perseverancia toda cosa alcanza.

根気があれば、全てを達成できる” (同諺辞典, 諺 1306 を参照), “Pobre porfiando saca mendrugo. 粘って粘って, パンくずもらう” (粘り強さが全てを手に入れる, 筆者の諺辞典, 諺 1326 を参照) など多数ある。

- スバルビ諺辞典にも次の異表現が収載されている; “La gotera cava la piedra. 水滴石うがつ”, “Una gotera continua ablanda un duro peñón. 絶えまぬしづくは, 堅い岩をも崩す”, “Una gotera de agua menuda deshace la piedra más dura. 小さい水滴が最も堅い石をもうがつ” などの諺は, 途中で放棄せずに続けければ, どんなに大きな困難をも克服することができるとおしてくれる。
- 例題: セレスティーナ第 8 幕, カリストの使用人の一人が仲間に, 女をものにするにはと, 諺を口にする, “.....Mucho puede el continuo trabajo; una continua gotera horaca una piedra. しつこくやれば大ていのことはできるぜ。ぼたぼた落ちる滴は岩をも通すからな。” (魔女セレスティナ, 大島正訳) 注: “horaca は horada, agujerea—穴をあける” —Bruno Mario Damiani, La Celestina, Cátedra.
- 同じ比喩を用いた同義の日本の諺には, “雨垂れ石を穿つ”, “点滴石を穿つ”, “水滴石を穿つ” がある, その他の同義の諺には, “念力岩をも通す”, “石の上にも三年” などがある。

1637. Una cosa es predicar y otra dar trigo.

説教するのと 小麦を上げるのは 異なる

- キリスト教のおしえに従ってそれを実行するより忠告するほうがずっと易しい。(パロス)
- 次の異表現が筆者の諺辞典に収載されている; “No es lo mismo predicar que dar trigo. 説教するのと, 小麦を上げるのは, 同じではない” (諺 1089 を参照), 同義の諺には “A buen salvo está el que repica. 警鐘ならす者に, 火の粉はかからぬ” (人というものは, 自分の身に火の粉がかからないと分かれば, どんなことでも忠告できる—筆者の諺辞典, 諺 4 を参照), “Del dicho al hecho hay gran trecho. 言うことと, 行うことには, 大きなへだたりがある” (同諺辞典, 諺 391 を参照), “Más fácil hablar que obrar. 言うは行うより易し” (スバルビ諺辞典), “Más fácil recetar que curar. 処方するのは, 治療するより易しい” (同諺辞典) などがある。
- 日本の同義の諺には “言うは易く行うは難し”, “口では大阪の城も建つ” などがある。

1638. Una en el clavo y ciento en la herradura.

下手な蹄鉄工も 一度は当たる

- 1) (失敗を重ねた後に) 偶然うまくいく、まぐれに当たる。2) よく間違う。
- コバルピアス (宝典) によると、標題の諺は“蹄鉄工が何回も釘を打ちこむのを間違えて蹄鉄ばかりを叩いてしまうところからきている。そこから、故意にはなく見当違いの言葉を吐く者を言う。<dar en el clavo—言い当てる、要点をぴたりとつかむ、凶星を指す>”
- コレアス諺集には次の異表現“Una en el clavo y dos en la herradura; o ciento en la herradura. 一回は釘に、二回は蹄鉄に(当たる); 一回は釘に、百回は蹄鉄に(当たる)”がある。
- “Clavo—釘”と“herradura—蹄鉄”の組み合わせで、次のようなよく用いられている大切な諺がある; “Por un clavo se pierde una herradura. 一本の釘がもとで蹄鉄がなくなる”(些細なことだと思って油断していると、甚大な被害がもたらされる。<千丈の堤も蟻の一穴>—筆者の諺辞典, 諺 1371 を参照)
- 日本の諺には、同義で次のようなよく似た比喩の“下手な鍛冶屋も一度は名剣”がある。こちらは鍛冶屋が刀を上手に打ち込むことができない、スペインの蹄鉄工が蹄鉄に釘を打ち込めないで何回も外してしまう意味。同様に、“下手な鉄砲も数撃てば当たる”(数多くやっているうちには成功することもあるというたとえ。まぐれ当たりをひやかしたり、自分の成功を謙遜したりするときなどに用いる—故事ことわざ活用辞典) という諺もある。日本では、こちらの方がよく知られている。

1639. Una en la boca y otra en el corazón.

口に蜜あり腹に剣あり

- 口でおだてあげて計略にのせようと意図している者をいう。(パロス)
- コレアス諺集には、上記の表現とともに異表現の“Una en la boca y otro en el corazón. 同訳”が見られ、コレアスによると、二心のあるうわべだけの人を指す。
- 類義のことわざが筆者の諺辞典に次のように多数ある; “Detrás de la cruz está el diablo. 十字架の後ろに悪魔がひそんでいる”(外見は善良そうに見えるが、本当は邪悪である, 諺 403 を参照), “El gato de Marirramos halaga con la cola y araña

con las manos. しっぽでじゃれつき、爪でひっかくマリラモスの猫”（表と裏のふたつの顔を持つ偽善者を指す、諺 613 を参照），“Palabras de santo y uñas de gato. 聖人の言葉に、猫の爪”（諺 1245 を参照），“Piel de oveja, carne de lobo. 羊の皮の下には、狼の肉”（諺 1317 を参照），“Piel de oveja, costillas de lobo. 羊の皮の下には、狼の背中”、“So el buen sayo hay hombre malo. 立派な衣の下に悪い男”（諺 1549 を参照）など。

- まさに日本の諺“口に蜜あり腹に剣あり”と同義で、口先では相手がうれしがするようなことを平気で言いながら、心の中は悪意に満ちている陰険な人の様子を言う。相手にうまいことを言う者には警戒せよとずばり言うのが“旨い物食わず人に油断すな”である。

1640. Una golondrina no hace verano, ni una sola virtud bienaventurado.

一羽の燕では 夏にはならず
一回の善行では 善人にはならず

- 一回の行為を習慣とみなすことは出来ない、故に、一回きりの行いをした者をそれによってこういう者だと判断することは出来ない。（バロス）
- よく使われるのは前半の文で、コレアスとバロスの諺集には後半部分も加わっている。イリバレンによると、春頃にアフリカからわれわれの国（スペイン）に飛来してくるこの鳥は、たった一羽では夏の到来を告げはしない。ラテン語では“Una hirundo non facit ver.”、カタルーニャ語では“Una oreneta no fa estiu.”と言うそうである。この諺がとても古くから現在まで使われているのが分かる。
- 一羽の燕が夏の到来を意味しないように、たった一回きりの善行では習慣にならないし、ましてやその一回の善行でその人を直ちに善人であると判断することは出来ない。（筆者）
- コバルビアス（宝典）は次のようにコメントしている；“夏の初めに巣作りにやってくる燕。一度にたくさんの燕が飛来してくる頃はもう夏である。一羽先だって来るのは、春の到来を知らせはするが、夏が来たとは思わせない。そこから、一人の証言を信用することはできないし、一回起こった珍事を普通の出来事と見なすことは出来ない。”

- 同義の諺には “Un solo acto no hace hábito. 一回きりの行いは習慣とはならない” (筆者の諺辞典, 諺 1660 を参照), “Un solo golpe no derriba un roble. 一撃のみでは、樫の木を倒せない” (筆者の諺辞典, 諺 1661 を参照) などがあり, 反義には “Para muestra basta un botón. 見本には, 一個のボタンで十分だ” (ある事を実証するためには, すでに起きたただ一つの事実だけで十分である, 同諺辞典, 諺 1264 を参照), “Por la muestra se conoce el paño. 見本を見れば品物が分かる” (一つの証拠があれば, その他の事を推測できる, 或は, 一回の行いだけで人を判断する時にいう) などがある。
- 例題 1: ドン・キホーテ第一部 13 章, 思い姫をもたぬ遍歴の騎士があるわけにはゆかぬと言ひ張るドン・キホーテに, ある高名な騎士は特定な婦人をもったことはないと返事する旅びと, それに対しドン・キホーテが諺の前半を引用する, “— Señor, una golondrina no hace verano. いやいや, ただ一羽の燕では夏になりませぬて。” (正編一, 永田寛定訳)
- 例題 2: セレスティーナ第 7 幕, 意図的にカリストの従者のひとりをとちしようとしているセレスティーナに, 自分にはいい人がいるからと拒否する女に対し, セレスティーナがたくさんの諺を口にして一人の男だけにかまけるなど説得する, そのうちの諺の一つがこれである; “; ...un solo acto no hace hábito;una golondrina no hace verano;たった一回の行ないでは習慣にはならぬ。.....たった一羽の燕が飛んできたからといって, 夏にはならぬ” (魔女セレスティナ, 大島正訳)
- 物事が習慣になるには, 最低三日以上は続けなければならないであろう。たとえば, 禁煙, 禁酒を誓ったのに数日しか続かなければ周りの者に “三日坊主” と揶揄されるであろう。これは物事に飽きやすく長続きしないことをたとえている日本の諺である。他方, スペインの諺では, どんな行為, 出来事であれ繰り返し行われることが習慣となる, 故に, 一回のみの行為, 出来事で早急な判断をするのは慎んだほうがよい, と戒めている。

1641. Un alma sola, ni canta ni llora.

ひとりきりの魂は 歌いも 泣きもしない

- 人というものは, 自分の気持ちを伝えられる相手がいなければ本当に心から喜んだり

悲しんだりできない。(バロス)

- コレアス諺集には、次の異表現 “Un ánima sola; o una persona sola ni canta ni llora. ひとりきりの魂、或は、ひとりぼっちは、歌いも、泣きもしない” が、また、スバルビ諺辞典にも “Un ánima, o un ave, o una mujer, sola, ni canta, o ni ríe, ni llora. ひとりきりの魂、ひとりぼっちの鳥、たったひとりの女は、歌いも、笑いも、泣きもしない” (喜びや苦しみをわかち合う者のいない孤独、孤立の痛ましさ、嘆きを謳う—スバルビ) などの異表現が収載されている。
- 類義の諺には “El que solo come su gallo, solo ensilla su caballo. ひとりでチキンを食べる者は、ひとりで馬に鞍をつける” (他の者たちと富を分かち合わぬ者は、必要が生じた時には助けてもらえない、筆者の諺辞典、諺 507 を参照)、“Ganar amigos es dar dinero a logro y sembrar en regadío. 友を得るということは、高利で金を貸し、溜め池に種を蒔くようなもの” (同諺辞典、諺 612 を参照) などがあり、反義には “Más vale señoero que con ruin compañero. ひとりのほうが、いやな連れというよりまし” (人生でも旅でも気が合う人でなければ、ひとりのほうが気楽でいい、同諺辞典、諺 897 を参照)、“Más vale solo que mal acompañado. ひとりのほうが、気の合わぬつれというよりまし” (同諺辞典、諺 900 を参照) などがある。
- 例題：セレスティーナ第7幕、躍起になって男をとりもちしようとしている女術のセレスティーナが、女にいくつもの諺を使ってかき口説く、その中のひとつがこれである。先の諺 1640 に先行するものである、“.....Una alma sola ni canta ni llora;人はたった一人でも歌いもしないし、泣きもしないんだよ。....” (魔女セレスティーナ、大島正訳)

1642. Una perdiz sola por maravilla vuela sin otra.

たった一羽のシャコは 連れなしでは
ほとんど飛べない

- 人には、気持ちの通じ合う連れ、仲間が必要である。
- 同義の諺には “Un alma sola, ni canta ni llora. ひとりきりの魂は、歌いも泣きもしない” (筆者の諺辞典、諺 1641 を参照)、“El mur que no sabe sino un horado, presto le toma el gato. 一つの穴しか知らぬ鼠は、すぐ猫に捕まる”、“Quien no

tiene sino un ojo, mirá a cuánto peligro anda. 目がひとつしかない者は、どれくらい危険か気をつけよ”, “Un manjar solo continuo presto pone hastío. 同じごちそうが続くとすぐに飽きる” などがある。

- 例題：セレスティーナ第7幕，女術のセレスティーナが，一連の諺を並べ立てて女を納得させようとやっきになっている。前の諺 1640，1641 と同場面である，“.....; una perdiz sola por maravilla vuela, mayormente en verano; ...しゃこもたった一羽では，めったに飛びはせぬ。ことに夏にはね...”（魔女セレスティーナ，大島正訳）
- 類義の日本の諺にも“鯛も一人は旨からず”がある。せっかくのおいしい鯛でもひとりきりで食べたのではおいしくはないということ。料理は気の合う仲間と楽しくお喋りしながら食べると一層おいしく感じられる。

1643. Un asno cargado de oro sube ligero a una montaña.

黄金を積んだロバは らくらくと山を登る

- 全てのものの上に君臨する金の威力をたとえて言う。財宝があれば不可能と思われることも出来る。
- 異表現には “No hay lugar tan alto que un asno cargado de oro no suba. 黄金を積んだロバが，登れぬほどの高いところはない”（筆者の諺辞典，諺 1123 を参照）がある。
- 同義の諺には “Asno con oro, alcánzalo todo. 黄金を積んだロバは，何でも手に入る”（同諺辞典，諺 97 を参照），“No hay cerradura, si es de oro la ganzúa. もし，こじ開け道具が金なら，閉める鍵はない”（同諺辞典，諺 1112 を参照），“Las riquezas son poderosas de soldar muchas quiebras. 富は，たくさんのひびをもつなぎ合わせる”（同諺辞典，諺 1486 を参照），“Todo lo puede el dinero. 金は何でもできる”（同諺辞典，諺 1601 を参照）などがある。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 35 章，ドゥルシネア姫の幻術を解くためにわしを答うたせようとあくたいを浴びせる，本当ならきげんをとるために贈り物でもするのが普通なのにと，サンチョがいくつか諺を口にする，そのうちの一つ，“...sabiendo aquel refrán que dicen por ahí, que un asno cargado de oro sube ligero por una montaña, y que世間でよく使うことわざの<黄金を背負ったろばは山をかるがると登る>，...”（続編二，永田寛定訳） 注：永田寛定の注釈によると，これは，

ことわざではなく、マケドニア王フィリーポのことばくろばが金貨をせおって登れるようなところで、不落の要塞はない>をもじった。つまり、どんなに志操の堅固な人も、金銭にはもろい、ということ。(注 126, 続編二)

- 日本の諺にも同様の主旨の諺が多数ある。そのうちのいくつかが“銭あれば木仏も面を返す”, “銭あれば木仏も面を和らぐ”などで、木仏のように感情が冷ややかな者でも、金持ちには顔を向け、やさしい表情を作る意で、金の威力の前にはなびかぬ者はないことのたとえ。(故事ことわざ活用辞典)

1644. Un asno cubierto de oro parece mejor que un caballo enalbardado.

黄金で覆われたロバは 荷鞍をつけた馬より
立派に見える

- どんなに金というものは、人々を屈服させるかをいう。愚かな金持ちは、貧乏な利口者よりよく見られるのである。
- 同義の諺は次のように多数ある；“El dinero es caballero. 金持てば殿様”（筆者の諺辞典，諺 420 を参照），“Más vale din de moneda que don sin renta. 金は、身分に勝る”（同諺辞典，諺 873 を参照），“Las necesidades del rico pasan por sentencias en el mundo. 金持ちのたわ言は、世間をまかり通る”（同諺辞典，諺 1030 を参照），“No hay lugar tan alto que un asno cargado de oro no suba. 黄金を積んだロバが、登れぬほどの高いところはない”（同諺辞典，諺 1123 を参照），“No hay mal tan lastimero como no tener dinero. 金がないほど哀れな不運はない”（同諺辞典，諺 1125 を参照），“Un asno cargado de oro sube ligero a una montaña. 黄金を積んだロバは、らくらくと山を登る”（同諺辞典，諺 1643 を参照）
- 例題：ドン・キホーテ第二部 20 章，金持ちカマーチョの結婚式でたらふくごちそうになったサンチョは、カマーチョをひいきにして恋敵の貧乏人バシーリオをこきおろす，そして諺を言う，“...: un asno cubierto de oro parece mejor que un caballo enalbardado. ...金びかで飾ったろばは，荷鞍をつけた馬よりも，りっぱにめえるでね。”（続編一，永田寛定訳）

1645. Un buen morir da honor a la vida entera.

立派な死は 全生涯に名誉を与える

- バロスによると、これはイタリアの詩人ペトラルカの“Un bel morir tutta la vita onora.”をスペイン語に訳した文である。また、コレアス諺集にもイタリアの詩人の文であるとして“Un bel morir tota la vita honora. 同訳”が収載されている。
- 名誉ある死については、すでに筆者の諺辞典で次のような諺を見てきた；“Antes muerte que vergüenza. 恥より死”（諺 71 を参照），“Antes morir que ensuciar el vivir; o manchar el vivir. 汚れた生より死”，“Antes padecer que rendirse a cosa fea. 汚らわしいことに屈服するより死”，“Cobra buena fama y échate a dormir; cóbrala mala y échate a morir. よい評判とって、さっさと床につけ、悪い評判とったら、さっさと死んでしまえ”（諺 235 を参照），“Más vale dejar en la muerte al enemigo, que pedir en la vida al amigo. 死を敵にゆだねる方が、生きて友に助けを乞うよりまし”（不名誉な恥をかくより命を捨てたほうがよいという意、諺 872 を参照），“Más vale perderse el hombre que perder el nombre. 命より名を惜しむ”（諺 889 を参照）など。
- 類義の日本の諺には“人は一代名は末代”，“虎は死して皮を残し人は死して名を残す”などがある。

1646. Un clavo saca otro clavo.

一本の釘で 別の釘を抜く

- 板に打ちつけられている釘は、別の釘を押しつけて抜くことができるように、以前からの苦痛は新たな苦痛によって取り除かれる、或は、軽い苦痛は、より重い苦痛によって和らげられるということ。すでに筆者の諺辞典、諺 302 の異表現“Con un clavo se saca otro clavo. 一本の釘で、別の釘をぬく”で、詳細に説明がされているので参照して下さい。
- コレアス諺集、スバルビィ諺辞典に次の異表現“Un clavo saca a otro; o un clavo arranca a otro. 一本の釘で別の釘を抜く；或は、一本の釘で別の釘を引き抜く”，“Un clavo saca otro clavo, y un bolo otro bolo. 一本の釘で別の釘を抜く，一本のピンで別のピンを抜く”がそれぞれ収載されている。

1647. Un cuchillo mesmo me parte el pan y me corta el dedo.

同じナイフが パンも指も切る (両刃の剣)

- 同じ人とか同一の物が時には利益をもたらしてくれたり、時には害をもたらすことがある。(パロス) 人で物でも使い方によって役にも立つし、危険を招く怖れもあるということ。
- “両刃の剣” とは、“故事ことわざ活用辞典”によると、両面に刃が付いている剣は、人を斬る一方で自分も傷つくことがあるから、非常に役に立つ反面、別の面で大きな危険を招きかねないことをたとえている。“両刃”は“双刃”“諸刃”とも書く。
- “Mesmo”は、古語で“mismo—同一の、同じ”のこと。

1648. Un loco hace ciento.

一人の愚か者が 百人の愚か者を生む

- 他人の習慣をも駄目にする悪い見本の影響力の強さを言う。(スバルビィ) 人というものは、しばしば真実でもなく、理論的でもない意見に納得し、引きずられていくものである。(パロス)
- “宝典” (コバルビアス) には、“Un loco haze ciento. 同訳”が収載されている、コバルビアスは、次のようにコメントしている；“特に若者の間で普通に見られるのは、服装とか会話とか、その他のあらゆることで、一人が無作法でばかげたことをしでかすと、他の者たちがそれを都会ふうで当たり前なことであると受け入れ、すぐに真似をして墮落してしまうのである。”
- 異表現には“Un bobo hace ciento. 同訳”がある。
- こちらの“付和雷同”という言葉を思いださせる諺である。自分にしっかりとした定見がないと、よく考えもせず他人の意見に同調してしまうということはある。

1649. Un mal no viene solo.

禍いは 独りでは来ぬ

- たいていの場合、不運、災難、禍いはつぎつぎと数珠つなぎにやって来るものである。だから、もしひとつの災難に見舞われるだけなら、それは不幸中の幸いとして考えたほうがよい。

- 標題のことわざを証明するような一連の諺が次のようにある； “¿Adónde vas, mal? Adonde hay más. わざわいよ、どこへ行くの？ わざわいがあるとこにさ”（筆者の諺辞典，諺 19 を参照），“Bien vengas, mal, si viene solo. 禍いよ、ひとりだけなら、ようこそお出で”（同諺辞典，諺 141 を参照），“El mal entra a brazadas y sale a pulgaradas. 禍いはどっさり入ってくる，でもほんの少ししか出て行かない”（同諺辞典，諺 801 を参照），“Un mal llama a otro. ひとつの災難が，別の災難を招く”など。
- 災難は，一度起きるとまた続いて起きる，とかく悪い事は重なりやすいという同義の日本の諺には，“一災起これば二災起こる”，“禍いは独り行かず”，“福重ねて至らず禍い必ず重ねて来る”，“一難去ってまた一難”，“弱目にたたり目”，“弱身につけこむ風の神”，“不幸の上に不幸が重なる”など多数ある。

1650. Un manjar de continuo quita el apetito.

続けざまの同じご馳走は 食欲をうばう

- どんなに美味しいものでも，同じ料理が毎日続けば，人間というものは飽きるものである。
- バロスによると，この諺の由来は次の逸話による； “フランスの王エンリケ四世の枢密官であり聴罪師が，王がしばしば王妃を独りにして，低い身分の女性も含めて，他の女性たちと気軽な恋愛を楽しむことをよく思わず王にそのことを忠告した。度々の忠告に飽き飽きした王が，その枢密官を食事に数日間続けて招待し，料理人には毎回しゃこをだすように命じた。数日経ってから，その料理に食欲を示さなくなった枢密官にその理由を尋ねると，“しゃこも続けば飽きますから。”と王に枢密官が叫んだ。ある時，王の不貞をなじった枢密官に王が返答した，“我が友よ，同じ王妃には飽きたから。”
- コレアス諺集には次のように異表現とともに同義の諺が収載されている，“Un manjar de contino quita el apetito. 同訳”。“Un manjar siempre, enfada. 同じごちそうは飽きさせる”など。その他の同義の諺には“Todos los días olla, amarga el caldo. 連日のナベ料理は，スープを苦くする”（どんなに面白いことでも，何回も同じことが繰り返かえされると飽き飽きするものである—スバルビィ，筆者の諺辞典，諺 1605 を参照）

- 例題：セレスティーナ第7幕，続けざまにいくつもの諺を口にだして，他の男もつきあえと女をかき口説くセレスティーナ，ここでは，標題の諺が少し変えられている，“...; un manjar solo continuo presto pone hastío; ...たった一種類の料理が，いつまでも続くとすぐにいやになるものさ。...”（魔女セレスティナ，大島正訳）

1651. Un nudo a la bolsa y dos a la boca.

財布には一本の結び目 口には二本の結び目

- 浪費はするな，また，ある種の人と一緒にいる時は，なるべく口は慎んだほうがよい。（スバルビ諺辞典）
- コレアス（コレアス諺集）は次のようにコメントしている；響きの良い忠告である，次のように入れ替えることもできる；dos nudos a la boca y uno a la bolsa, o un nudo a la boca y dos a la bolsa. 口には二本の結び目，財布には一本の結び目，或は，口には一本の結び目，財布には二本の結び目”
- この諺では“bolsa-財布”と“boca-口”に“nudo-結び目”を作ってしっかりと閉じよと忠告している。すでに見てきた同義の諺1634（“Una aguja para la bolsa y dos para la boca. 財布は一本の縫い針で，口は二本の縫い針で”閉じよ，筆者の諺辞典）では，両方を“aguja-縫い針”でしっかりと閉じて，浪費はするな，無駄口は叩くなどおしえている。

1652. Uno piensa el bayo y otro el que le ensilla.

馬があることを考えていると

それに乗る者は別のことを考えている

- 人は，それぞれ自分に関心があることだけを考えている。（パロス）
- コレアス（コレアス諺集）によると；“<Bayo>とは，ここでは<caballo-鹿毛の馬>のこと。馬は，あることを考え，それに乗る者は，別のことを考えている。この諺をそういうふう理解しない人は，ある小僧は馬にえさをやることを考え，別の小僧はそれに鞍をつけることを考えていると解釈するが，それは本来の意味ではない。例えば，ある父親が娘のある若ものと結婚させようと考えていたところ，娘はさっさと別の言い寄ってきた若ものと結婚してしまったというようなことを比喩的に表わしているのである。他の同様な場合にも応用できるであろう。”

- スバルビィ諺辞典には、次の異表現 “Uno piensa el asno, y otro el albarda. ロバがあることを考えていると、荷鞍は別のことを考えている” (考えていることとは別の結果になってしまうということは、よくあることである—スバルビィ) が、収載されている。また、標題の諺については、スバルビィのコメントは、“多くの場合、上位にいる者が下位の者について考える時は、(下位の者とは) 全然異なった考え方をしているということをたとえて言っている。”
- 例題：セレスティーナ第 19 幕、女がお前を騙そうとしているなら、お前はその裏をかけといくつかの諺を口にだしてけしかける下僕仲間、そのうちのひとつがこれである、“....., y cantarás después en tu establo; <uno piensa el bayo y otro el que lo ensilla. それから後に、お前の厩で歌を歌えよ。栗毛の馬があることを考えていると、そいつに乗る者は別のことを考えているということさ。” (魔女セレスティナ、大島正訳)

1653. Unos crían las gallinas y otros se comen los pollos.

ある者が雌鳥を育て 別の者が雛鳥を食べる

- 苦勞した者とは別の者が利益を受けることをたとえて言う。(パロス)
- 同義の諺には “Unos lo siembran, otros lo cogen o siegan. ある者が種蒔きをし、別の者が刈り取る” がある、また、類義のことわざには “Duero tiene la fama y Pisuerga lleva el agua. ドゥエロ川は有名で、ピスエルガ川が水を運ぶ” (実際に骨折って重要な仕事をしている人とは別の人が名誉を得る—一筆者の諺辞典、諺 458 を参照)、“Unos tienen la fama y otros cardan la lana. ある者が名誉を獲得し、別の者が羊毛をすく” (苦勞した人とは別人が名誉をうる—同諺辞典、諺 1655 を参照) などがある。
- 類義の日本の諺には “鷹骨折って旦那の餌食” (鷹狩りで、鷹が苦勞して捕った獲物が鷹のものにならないように、奉公人が苦勞した結果は旦那のものになることのとたとえ—故事ことわざ活用辞典)、“犬骨折って鷹の餌食”、“犬が追い出した鶉を鷹がとる” などがある。

1654. Unos nacieron para moler y otros para ser molidos.

ある者はつぶすために生まれ
別の者はつぶされるために生まれる

- 身分とか性格によってある者は他の者に命令するのが当然と考え、別の者は服従するよりほか仕方がないということ。(バロス)
- 同義の諺には“Unos nacen con estrella y otros nacen estrellados. ある者は(幸運な)星の下に生まれ、別の者は砕かれた星の下に生まれる”(世の中は、運が良い者と悪い者とで成り立っている—スバルビィ諺辞典)がある。スペインでは、こちらの諺のほうがよく使われる。語呂合わせが発音しやすく、覚え易いからであろう。注：“estrella—星 (buena estrella—幸運な星)” “estrellado—粉々に砕かれた (星—悪運)”
- 人の運は天命によって定まっているという類義の日本の諺には“運は天にあり”、“富貴天にあり”、“運否天賦”(人の運不運は全て天が決めることである)などがある。

1655. Unos tienen la fama y otros cardan la lana.

ある者が名誉を獲得し 別の者が羊毛をすく

- 他の人たちが利益を得るために働く人たちがいるということは珍しいことではない。そして、名声というものは、一生名前を知られることのない人々の働きによって得られることが多い。(バロス) 別の者の苦労のお陰をこうむるという人々がいるものである。この諺は皮肉をこめて用いられる。(スバルビィ諺辞典)
- 異表現が次のように見られる, “Uno tiene la fama y otro carda la lana, o lava. ある者が名誉を獲得し、別の者が羊毛をすく、或は、羊毛を洗う”(コレアス諺集), “Unos cobran la fama y otros cardan la lana. ある者が名誉を獲得し、別の者が羊毛をすく”など。
- 同義の諺には“Duero tiene la fama y Pisuerga lleva el agua. ドゥエロ川は有名で、ピスエルガ川が水を運ぶ”(ある者の成功の名誉の陰で実際に苦労しているのは別の者である—筆者の諺辞典、諺 458 を参照), “La vaca anda en el prado y acá majan el ajo. 雌牛が牧場を歩き回り、こちらではにんにくをつぶす”(実際に苦労して仕事をしている者とは別の者が利益を享受する時に用いられる—同諺辞典、諺

1665 を参照) などがある。

- 表には出ずに陰働きをする者をこちらでは“縁の下の力持ち”，“縁の下の掃除番”，“陰の舞の奉公” などという。こういう者たちの苦勞，骨折りで表に立つ者が利益を得たり，名譽を得るといことが多々あるものである。

1656. Un padre para cien hijos y no cien hijos para un padre.

百人の子には 一人の父親で十分

百人の子でも 一人の父親には不十分

- 何故なら，子供たちの中の誰でも必要な時には，父親は駆けつけるが，その反対に父親が子供を必要とする時には，誰も手を差し伸べようとはしないから。(パロス)
- スバルビィ諺辞典には，“un padre—父親”ではなく“una madre—母親”が次のように置き換えられている，“Una madre para cien hijos, y cien hijos no son para una madre. 百人の子には，一人の母親で十分，百人の子がいても一人の母親には十分ではない”（子供たちが両親に対してとても恩知らずであるということ。母親というものは，喜んで子供たちの誰にでも自分を犠牲にするが，どんな子供でも母親のために犠牲になろうとはしない。勿論，例外はあろう。しかし，不幸にもそう多くはない。この諺には<母親>の代りに<父親>をもってくることもできるが，意味は全然変わらない。”
- 類義の日本の諺には“親思う心に勝る親心”（親に孝行をしたいと思う子の心より，子に対する親の慈愛のほうがより深いということ），“父の恩は山よりも高く母の恩は海よりも深し”（父母の慈愛，情けはこの上なく大きいことをたとえている。<母の恩>は<母の徳>ともいう。—故事ことわざ活用辞典），“父は天母は地” などがある。

1657. Un palo vestido no parece palo.

棒もおめかしすれば 棒には見えない（馬子にも衣裳）

- 誰でも衣服には充分気を配るべきである。世間の人，いつでも外見で他人を判断するから。(パロス) 肉体的な欠陥を隠すのにめかしは役に立つ。(スバルビィ)
- 異表現には“Un palo compuesto no parece palo. 同訳”，“Vistan un palo y parecerá algo. 棒におめかししなさい，そうすれば立派に見えるから” などがある。
- 反義の諺には“ Aunque la mona se vista de seda, mona se queda. いくら猿が絹

をまともでも、猿は猿である（猿に冠）”がある。

- 例題：ドン・キホーテ第二部 51 章、島の太守になったサンチョへドン・キホーテが手紙で職務にふさわしい衣裳を身につけるようにと諺をもちだして諭す，“... Vistete bien; que un palo compuesto no parece palo. No digo que traigas dijese ni galas,よき衣裳相着け申し候事。馬子にも衣裳と申すことも有之候。ただし、きらびやかに珠玉宝石を飾れとはならず。”（続編三，高橋正武訳）
- 同義の日本の諺には“馬子にも衣裳”，“鬼瓦にも化粧”，“木偶も髪かたち”などがある，どんな人でも上等な衣服で身なりを整えれば立派に見えるということ。反義には“猿に冠”，“衣ばかりで和尚はできぬ”などがある。

1658. Un pecado llama a otro pecado.

ひとつの罪が 別の罪を招く

- 一度悪い事をする，その後罪に罪を重ねるのは容易である。（スバルビィ）
- スバルビィ諺辞典に異表現“Un abismo llama a otro. ひとつの禍いが，別の禍いを招く”が見られる。同義の諺には“Un mal llama a otro. ひとつの災難が，別の災難を招く”，“Un mal no viene solo. 禍いは，独りでは来ぬ”（筆者の諺辞典，諺 1649 を参照）などがある。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 60 章，強盗団の首領ローケがドン・キホーテに，この道に入ったのも復讐心に駆られてだという，そして次のように諺を続ける，“...; y como un abismo llama a otro y un pecado a otro pecado, hanse eslabonado las venganzas.....ひとつの禍いはまたひとつの禍いを招き，ひとつの罪はまたひとつの罪を呼ぶというように，復讐がまた別の復讐につながってね，...”（続編二，高橋正武訳）

1659. Un puerco encenagado quiere encenagar todo el rebaño.

泥だらけの豚は すべての仲間を 泥まみれにしたがる

- ある間違いを犯したことによって嫌われている者は，自分の過ちの正当性を主張するためにも他の者たちが同じような過失を犯すことを望むものである。（パロス）
- コレアス諺集には，次のような異表現がいくつか見られる；“Un puerco en el lodo quiere meter a otro. 泥の中の豚は，仲間も泥の中に引きずり入れたがる”，“Un

puerco enlodado enlodará todo un rebaño. 泥まみれの豚は、群れの全部を泥まみれにするだろう”, “Un puerco enlodado quiere enlodar todo el rebaño. 泥まみれの豚は、すべての仲間を泥まみれにしたがる” など。

- 皆が同じような過失を犯せば、自分の過失が目立たなくなり、他の者たちに仕方がなかったと思わせることができる。また、集団心理を巧妙に利用すれば、個人の犯罪も犯罪でなくなることは、すでに過去の歴史を振り返れば証明済みである。

1660. Un solo acto no hace hábito.

一回きりの行いは 習慣とはならない

- 良いことも悪いことも、一回きりの行為を習慣とみなすことはできない。
- コレアス（諺集）は、この諺は神学者、哲学者の弁であると言う。
- 同義の諺は次のように多数ある；“Una golondrina no hace verano, ni una sola virtud bienaventurado. 一羽の燕では、夏にはならず、一回の善行では、善人にはならず”（筆者の諺辞典、諺 1640 を参照），“Un solo golpe no derriba un roble. 一撃のみでは、樅の木を倒せない”（一回きりの試み、努力では何事も成功しない、同諺辞典、諺 1661 を参照），“Un tizón solo no arde sin otro. たったひとつの燃えさしではよく燃えない”（繰り返し行うことにより習慣となり、結果も出せるのである、同諺辞典、諺 1662 を参照）など。また、反義の諺には“Para muestra basta un botón. 見本には、一個のボタンで十分だ”（ある事の実証のためには、ただひとつの事実だけで十分である、同諺辞典、諺 1264 を参照），“Pescador que pesca un pez, pescador es. 魚一匹釣れば、漁師かどうか分かる”（才能とか素質があるかないかは、一回の行為で分かるものである、同諺辞典、諺 1309 を参照）などがある。
- 例題：セレスティーナ第7幕、カリストの従者のひとりから頼まれて、女を口説き落とそうとするセレスティーナが立て続けに用いる諺のうちの一つ，“.....; un solo acto no hace hábito. たった一回の行いでは習慣にはならぬ...”（魔女セレスティーナ、大島正訳）

1661. Un solo golpe no derriba un roble.

一撃のみでは 樅の木を倒せない

- どんな事であれ、欲するものを手にいれるためには、一回きりの挑戦、試みでは十分

ではない。(スバルビ)

- すでに次のように同義の諺を多数見てきた；“Una golondrina no hace verano, ni una sola virtud bienaventurado. 一羽の燕では、夏にはならず、一回の善行では、善人にはならず” (筆者の諺辞典, 諺 1640 を参照), “Un solo acto no hace hábito. 一回きりの行いは、習慣とはならない” (同諺辞典, 諺 1660 を参照), “Un tizón solo no arde sin otro. たったひとつの燃えさしでは、よく燃えない” (同諺辞典, 諺 1662 を参照) など。
- 例題：セレスティーナ第8幕, カリストの従者のひとりが、恋に頭がいっぱいで早急に事を成就させようとやきもきしている主君に向かい、短期間で大きな幸福を手に入れるのは無理であると忠告する, “...Un solo golpe no derriba un roble. Apercíbete con sufrimiento, ...樫の木は一発, 手斧をくわせたぐらいでは、倒れはいたしませんよ。旦那さま, 忍耐するよう心がけて下さいまし...” (魔女セレスティナ, 大島正訳)

1662. Un tizón solo no arde sin otro.

たったひとつの燃えさしでは よく燃えない

- 繰り返し何度も行うことにより、習慣となり、望むような結果をだせるし、目標を達成することもできる。
- コレアス諺集には次の異表現が多数ある；“Un tizón escueto no hace fuego. たったひとつの燃えさしでは、燃えない”, “Un tizón solo no arde sin otro que le acompañe. 燃えさしは、もうひとつの燃えさしがくっつかないと、よく燃えない”, “Un tizón solo no hace fuego sin compañero. 燃えさしは、もうひとつの燃えさしなしでは、よく燃えない”, “Un tizón solo y suelto no hace fuego. たったひとつ放りだされた燃えさしは、燃えない” など。
- 同義の諺には “Un solo acto no hace hábito. 一回きりの行いは、習慣とはならない” (筆者の諺辞典, 諺 1660 を参照), “Un solo golpe no derriba un roble. 一撃のみでは、樫の木は倒せない” (同諺辞典, 諺 1661 を参照), “Un testigo solo no es entera fe. たったひとりきりの証人では、まるまる信用できぬ” などがある。

1663. El uso hace el maestro.

習うより慣れろ

- 理論を教える最良の教材を習うより何度も経験して覚えるほうが身に付くものである。(スバルビィ) どんな事でも経験しないとよく理解できないものである。(バロス)
- 異表現には“El uso es maestro de todo. 経験は、全ての教師である”, “Uso hace maestro, o uso hace maestros. 慣れが教師を作る”などがある, また, 同義の諺には“El escarmentado, bien conoce el vado. 経験は, 学問に勝る(筆者の諺辞典, 諺 576 を参照), “La experiencia es madre de la ciencia. 経験は科学の母”(同諺辞典, 諺 594 を参照), “Experiencia es madre de las cosas. 経験は諸々の源である”, “La experiencia es madre de la ciencia, y rara vez se halla en los mozos. 経験は科学の母である, めったに若者たちには見られないが”などがある。
- 日本の諺には, “習うより慣れる”(“習おうより慣れよ”ともいう), “経験は愚者をも賢くする”, “亀の甲より年の却”などがある。

1664. Uso nuevo entierra viejo.

新しい慣習が 古い慣習を葬る

- 新しい慣習が現れることにより, 今までの古い習わしが廃れていく。(コレアス)
- コレアス諺集には, 次の異表現“Uso nuevo, entierra vieja. 新しい流行が, 老女を葬る”(若い女の子たちの流行が, 老女たちを古めかしく, みすばらしく見せるのである, コレアス)が収載されている。
- 同義の諺には“Con una caldera vieja se compra otra nueva. 古い釜は, 新品の釜に買い替えられる”(筆者の諺辞典, 諺 300 を参照)がある, また, こういう諺もある“Las cosas nuevas placen y las viejas satisfacen. 新しいものは喜ばせ, 古いものは満足させる”(同諺辞典, 諺 311 を参照)
- たいてい, 新しいものは何でも新鮮で人の目を引きつけるものであるし, ぴちぴちした若さも活力があって魅力がある。日本の諺にも“女房と暈は新しいのがよい”, “女房となすびは若いのがよい”, “女房百日馬二十日”などがある。いろいろなものに比較された女房もさぞかししんどいことであろう。しかし, 諺だけはどんなに古くても廃れることはなく, 現代にまでよみがえって生き生きとした新鮮さを保っているようである。

V

1665. Vaca (La) anda en el prado y acá majan el ajo.

雌牛が牧場を歩き回り

こちらではニンニクをすりつぶす

- 人が一生懸命働いて得た利益をそれとは別の人が享受する場合に用いられる。(パロス)
- 次の異表現 “La vaca anda en el prado, y acá majan el culantro, o el ajo; lo que el cordero. 雌牛が牧場を歩き回り, こちらではクラントロの種, 或は, ニンニクをすりつぶす; 或は子羊が (牧場を歩き回り)” がコレアス諺集に収載されている。注: “Culantro” は, 花環を作るのに用いられる植物で, その種は食用に使われる一筆者
- 類義の諺には “Duero tiene la fama y Pisuerga lleva el agua. ドゥエロ川は有名で, ピスエルガ川が水を運ぶ” (実際に重要な仕事をした人の名前は表にはでてこないで, それとは別の人が成功の名誉を得る意, 筆者の諺辞典, 諺 458 を参照), “Unos tienen la fama y otros cardan la lana. ある者が名誉を獲得し, 別の者が羊毛をすく” (苦労した人とは別人が名誉を得ること, 同諺辞典, 諺 1655 を参照) などがある。
- こちらの類義の諺には “縁の下の力持ち”, “縁の下の掃除番”, “陰の舞の奉公” などがある。

1666. Va el rey a do puede y no a do quiere.

王様は行ける所に行く 行きたい所ではなく

- われわれは出来ることをすることに満足しなければならない。(コレアス) 他の人から強制されたときに使う言い訳の言葉。(パロス)
- “Do” は, “done” の古語。
- われわれは, あれもしたいこれもしたいと望みを抱くが, それを本当に実現させるのは至難の業である。その目標に向かって最大限の努力はしなければならないが, 全て

欲することを達成させることは出来ないであろう。ここでは（コレアスの解釈）手に入れることが出来たことに我慢するのではなく満足せよとおしえている。

1667. Vale más casarse que abrasarse.

愛に身を焦がすより 結婚したほうがまし

- 苦悩するよりは決断せよの意。避けられない二つの不運のうち、よりましな不運を選ぶ時に使われる。（スバルビィ）
- 新約聖書中のパウロの言葉に拠る。パウロがコリントの信徒への手紙の中でみだらな行いを避けるためには結婚した方がよいと勧めた後で“未婚者とやもめは、わたしのように独りでいるのがいいでしょう”（新約聖書、コリントの信徒への手紙7-8-9）にこう続く、“Pero si no pueden controlar su naturaleza, que se casen, pues más vale casarse que consumirse de pasión. しかし、自分を抑制できなければ結婚しなさい。情欲に身を焦がすよりは、結婚したほうがましだからです。”（7-9-10）
- 異表現にはすでに見てきた“Mejor es casarse que abrasarse. 愛に身を焦がすより、結婚したほうがまし”（筆者の諺辞典、諺914を参照），“Más vale casarse que abrasarse. 同訳”などがある。
- 類義には“Mejor parece la hija mal casada que bien abarraganada. 娘の不幸な結婚は、幸福な同棲よりよく見える”（同諺辞典、諺922を参照）があり、反義には“Más vale ser buena enamorada que mala casada. 不幸な妻より、幸福な恋人”（同諺辞典、諺899を参照）がある。

1668. Valientes (Los) y el buen vino duran poco.

勇者も おいしいワインもすぐ終わる

- 虚勢を張って偽わりの名声を得ていた勇者というものは、すぐに誰からも信用されなくなるということ。（バロス）どんなことでも本物でないとすぐに底が割れてぼろが出てしまうのが如何に早いかを、おいしいワインが、たちまちのうちに人々に飲みつくされて如何に早く終わってしまうかということにたとえている。（筆者）
- コレアス諺集には、次の類義の言い回し“Valiente por el diente. 勇気があると我慢する者、しかし実際には、食べるときだけ元気がでる者”が見られる。コレアスによると、後半の“por el diente. 食べるときだけ元気がでる”は、前半の“Valiente

勇気がある”には矛盾している。

- 類義の日本の諺には“驕る平家は久しからず”，“驕る者久しからず”，“付け焼き刃はなまり易い”（本物でないとすぐに底が割れてぼろが出てしまう）などがある，また同じ事を“能ある鷹は爪を隠す”，“深い川は静かに流れる”などと言いつわしている諺がある。

1669. Vanse los amores, quedan los dolores.

愛は行ってしまい 痛みだけが残る

- 情熱が激しければ激しいほど，最悪の結果となるのが常である。（パロス）
- 類義の諺には“Donde hay amor hay dolor. 愛あるところに，痛みあり”（筆者の諺辞典，諺 438 を参照），“Donde hay gran amor, allí hay gran dolor. 激しい愛があるところに，激しい痛みあり”（コレアス諺集），“Donde no hay amor, no hay dolor. 愛なきところに，痛みなし”（同諺集）などがある。

1670. Vase el bien al bien y las abejas a la miel.

富は 富があるところに集まり

蜜蜂は 蜜があるところに集まる

- 一般的には，自然の法則に従えば同類は集まり，狭義の意味では，富は困窮している者よりも，すでに富を豊富に持っている者のところに集まるものである。（スバルビィ諺辞典）
- コレアス諺集には，次の同義の諺“Vase el bien para el bien y el mal para quien lo tien. 幸運は幸運があるところに行き，悪運は悪運を持っているものところに行く”，“Vase el oro al tesoro. 黄金は宝庫に行く”が収載されている。また，すでに筆者の諺辞典では，次のように同義の諺を多数見てきた；“¿Adónde vas, mal? Adonde hay más. わざわいよ，どこへ行くの？ わざわいがあるところにさ”（諺 19 を参照），“Bien, ¿adónde vas? A do tienen más. 幸福よ，どこへ行くのか？ 幸福があるところへ”（諺 128 を参照），“Bien vengas, mal, si vienes solo. ようこそおいで，ひとりやって来る災難よ”（諺 141 を参照），“Dinero llama dinero, 金が金を呼ぶ”（諺 421 を参照），“Donde hay las abejas hay la miel de ellas. 蜜蜂があるところに，あつめた蜜あり”（諺 440 を参照），“La llama llama adonde viene la llama.

炎は、炎をよぶ”（諺 777 を参照）など。

- 日本の同義の諺には“金は片行き”（金というものは、持っている者の所へはほとんど集まってくるが、ない者の所へは、全然集まらない），“甘い物に蟻がつく”などがある。

1671. Vase la piedra de la honda y la palabra de la boca.

ぱちんこではじいた石

口から出た言葉は飛んで行ってしまふ

- 拾うのは難しい。（バロス）
- 筆者の諺辞典には、すでに次の異表現“Palabra de boca, piedra de honda. 口から出た言葉、ぱちんこではじいた石”（遠くまで飛び、人を傷つける、諺 1244），“La piedra y la palabra no se recoge después de echada. 石と言葉は、放った後では拾えない”（人は誰でも慎重に考えながら話さなければならない、諺 1316）が詳細な解説つきで収載されているのでぜひ参照して下さい。
- また、コレアス諺集にも次の異表現“Palabra y piedra suelta no tiene vuelta. 放たれた言葉と石は戻って来ない”，“La palabra que sale de la boca, nunca más torna. 口から出た言葉は、決して戻ってこない”が見られる。
- こちらでよく用いられるのに“吐いた唾は呑めぬ”，“覆水盆に返らず”，“割った茶碗を接いでみる”などがある。いずれも一度やってしまったことを元に戻すことは難しいということをととえている。

1672. Vaso malo no se quiebra.

安いコップは 割れない

- 食器の中でもつまらないものほど長持ちするものである。（バロス）
- コレアス諺集には次の異表現“Vaso malo nunca es quebrado. 安いコップは決して割れない”，“Vaso malo nunca cae de mano. 安いコップは決して手からすべり落ちない”（災難というものは、注意をしているものに降りかかるものである—コレアス、値打ちのあるものは、簡単に壊れてしまう—バロス）が見られる。
- 真実を突いている諺で、われわれが日常よく出くわす光景である。日頃から大事に大事に使っていた値打ちのある食器ほど壊れ易く、何とも悔しい思いをしたことは誰でも

も経験している。それにひきかえ、割れたら取り替えようと待っているコップはなかなか割れてくれないのである。

1673. Váyase el diablo para ruin (o malo, o puto).

悪魔なんか くたばってしまへ

- 最悪の結果を避けるためには、物事はすばやく行わなければならない。(スバルビィ)
- 例題：セレスティーナ第8幕，カリストの従者の一人が，以前から自分たちの計略に引き入れたいと思っていた仲間に向かって言う，“...Seamos como hermanos, ¡vaya el diablo para ruin! Sea lo pasado cuestión de San Juan, y así paz para todo el año. Que las iras de los amigos siempre suelen ser reintegración del amor. 俺たちは兄弟分になるうや。くそっ，不仲のものと悪魔なんかくたばれたい！昔のことは水に流せだ，そうすりゃ年がら年中いざごごなしさ。友だち同志の腹の立て合いなんてものは，いつも新しい友情になるのがおちだよ。”（魔女セレスティナ，大島正訳）注：vaya el diablo para ruin! (dando así paz) —悪魔なんかくたばってしまへ！（そうすりゃ，怖いものなしさ）—Bruno Mario Damiani, Cátedra, La Celestina.

**1674. Vejez (La) pocos la veen,
y esos de hambre nunca mueren.**

長生きする者は めったにいないが
食えなくて 死んだ者なんかいない

- 人というものは、仕事をする最大の理由に食べるためというが、人が長生きできないのは、食べられないからではなく、それ以外の諸々の理由のためであるということ。
- “La vejez—老年，古い” に関しては次のような諺がある；“Vejez echa torpedad que trajo mocedad. 老年になると，若い頃の悪さが芽を吹く”（若い頃の自堕落な生活により，晩年には何らかの持病がでるものである—パロス），“La vejez tornó por los días en que nació. 老年は，生まれた頃に戻る”（年寄り，だんだん子供のようにになっていく—コレアス），“Vejez, mal deseado es. なりたくないのが老年である” など。
- その他にもすでに見てきたのが “A la vejez, viruelas. 年寄りの冷や水”（年寄りの

恋愛、筆者の諺辞典、諺 44 を参照)，“hazte viejo temprano y vivirás sano. 早く年寄りになりなさい、そうすれば健康に生きられるだろう”(ここで言う年寄りになるということは、色事を慎むということである、同諺辞典、諺 666 を参照)，“La leche y el vino, hacen el viejo niño. 牛乳とワインが、年寄りを赤ん坊にする”(同諺辞典、諺 733 を参照) などである。

- 例題：セレスティーナ第 7 幕、女術であるセレスティーナは、娼婦の一人エリシアにどんな仕事でもやってみるべきだ、若い時に怠けると、年とってからつらい目にあって泣くようになると説教をたれるが、エリシアはそんな説教は意にも介せずこう返答する，“...No tenemos de vivir para siempre. Gocemos y holguemos, que la vejez pocos la ven, y de los que la ven ninguno murió de hambre. あたしたちは永久に生きているわけがないのさ。さあ気も晴れ晴れに、たのしもうよ。老いさらばえるまで生きる者は、ほとんどないのだし、そこまで生きた者も、飢え死はしやしなかったのさ。(魔女セレスティナ、大島正訳)
- こちらの年寄りに関する諺には、次のように否定的なもの肯定的なもの両方がある，“老いては子に従え”，“年寄りの冷や水”，“老いての木登り”，“麒麟も老いては驚馬に劣る”，“亀の甲より年の劫”，“年寄りの言う事は聞くもの”，“老犬虚に吠えず”など。

1675. Vender miel al colmenero.

蜜を養蜂家に売る

- 余っているほど持っている人に、それと同じものを売ろうと試みることをたとえて言う。(パロス)
- 最初から断られることが分かっているのに、あえてそのような無駄な商いを試みようとする人を皮肉っている格言。

1676. Venir a ser como la viga, rey de las ranas.

蛙の王様になった 棒切れのような

- もの珍しさから初めこそ人の目を引き、驚かしたものの、その実体がばれてみると、人から軽んじられるような無益なものたとえ。
- この格言は、イソップの“王様を欲しがったカエル”の物語の前半からきている；

“森のなかの小さな沼に住んでいたカエルたちは、自分たちを治めてくれる王様を神様に与えてくれるようお願いしました。すると、神様はカエルたちが暮している沼に、木の板を落しました。ポチャンと大きな音がしたので、カエルたちは驚いて沼の底に隠れましたが、しばらくして顔を出してみると、そこには一片の板が浮かんでいるだけだったので、あっというまに板の上はカエルでいっぱいになりました。ただ浮かんでいるだけの王様が気に入らないカエルたちが、もう一度神様にもっと強く、厳しい王様を懇願したところ、神様は水へびをお遣わしになりました。しかし、今度の神様はあまりにも厳しすぎたのでカエルたちを一匹残らず食べてしまったのです。”

- 例題：ドン・キホーテ第二部 51 章，バラタリヤ島太守になったサンチョにドン・キホーテは、手紙の中で、格言を引用してこう注意している，“...; y las leyes que atemorizan y no se ejecutan, vienen a ser como la viga, rey de las ranas: que al principio las espantó, y con el tiempo la menospreciaron y se subieron sobre ella. 威嚇すれど遵守されざる法は，蛙の王たる丸太に異ならず，初め驚くも，時とともに，これを軽んじ，ついにその背に乗るに至らん。”（続編三，高橋正武訳）

1677. Ventura corre más que caballo ni mula.

幸運は 馬やラバより 早く走る

- 良いニュースは、直ぐに人に届くものである。また、運がよいと、欲するものを何年もかけて手に入れるかわりにすぐに手に入れることができるということ。（バロス）
- 誰でも手に入れたい幸運に関しては、次のような諺がある；“Al bien, buscarlo, y al mal, esperarlo. 福は捜しに行け，禍は来るのを待て”（幸運は積極的に捜しなさい，不運は，捜さなくてもひとりでやってくる，筆者の諺辞典，諺 45 を参照），“Aunque el bien más se dilate, como se alcance no es tarde. 幸運はどんなに延期されようとも，来るなら遅いということはない”（どんなに遅く来ようとも，福だけはいつでも人から歓迎される，同諺辞典，諺 108 を参照）
- この社会では，勝つか負けるかは，必ずしも実力だけではなく運に左右されることが多々ある。“負けるも勝つも運次第”，“勝負は時の運”などがそれを言い表している。そして運が良ければ“得手に帆を上げる”，“順風満帆”，“追風に帆を上げる”などのたとえのように全てが調子よく早く事が運ばれていくのである。

1678. Ventura (La) de la barca, la mocedad trabajada y a la vejez quemada.

船の運命は 新しい時は さんざん働かされ
古くなれば 燃やされる

- 一生不幸だった人を小舟の運命にたとえて言う。役に立っている間は、小舟はさんざん波に打ちつけられ、役に立たなくなるとぼろぼろになった船体は火にくべられてしまうのである。(スバルビィ) 嘆きの調子で言う。(パロス)
- 親からの財産がなく自分で働かなければ生きていけないたいの人間の運命ではなからうか。生きていくことは大変なことなのである。こちらの諺でも同じように“生は難し死は易し”，“人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し”などと言って生きることの辛さ、苦しさを謳うのである。

1679. Ventura (La) de la fea, la hermosa la desea.

醜女の幸運 美女がうらやむ

- 不器量な女たちでも努力しだいでは幸福になれるということ。
- 異表現には“La dicha de la fea, la bonita la desea. 醜女の幸運, 美女がうらやむ” (筆者の諺辞典, 諺 413 を参照), “La suerte de la fea, la bonita la desea. 同訳”, “La ventura de las feas, ellas se la granjean. 醜女の幸運は, 彼女たちが手に入れたもの” (美女たちが醜女の幸運をうらやんだところ, 醜女たちがこう返答した; これは (努力して) 手に入れたものであるから, あなたたちも同じようにしなさい, 愛されるように振る舞いなさい, そうすれば幸福になれますよ—コレアス諺集) などがある。
- 日本には, 標題と反義の“見目は果報の基”, “見目は幸いの花”, “氏無くして玉の輿” (よい家柄に生まれなくても, 容姿が美しければ富貴の身になれる) などの諺がある。どちらも真実を言い当てている。

1680. Verdad (La) adelgaza, mas no quiebra.

真実は 細くはなるが 切れはしない

- 人は, ずるさや嘘で真実を薄く見えなくさせるが, 最後には必ず勝利を得ることを信

じて、いつでも真実を言うべきである。(スバルビィ)

- コバルビアス (宝典) によると、“しなやかで堅い金属がどんなに強く引っ張っても壊れないように、真実というものは、どんなに深く調べあげてもその状態を保ち続けるが、虚偽は一回引っ張っただけで切れてしまうのである”
- コレアス諺集とバロス諺集には、次の異表現 “La verdad adelgaza, mas no quiebra su hilaza. 真実は、織り糸を細くはさせるが、切れはさせない” (どんなにやきもきしようが、人は真実を言えば、成功を収める—バロス)、“La verdad tiene gran fuerza, porque no quiebra. 真実は力強いので、切れはしない” が収載されている。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 10 章、この章の初めて、筆者は、ドン・キホーテの狂気ぶりがあまりにも酷いので、読者に信じてもらえないのではないかと怖れはするが、ほんのかけらの真実も欠けることなしに語ることにしたと言う、“..., porque la verdad adelgaza y no quiebra, y siempre anda sobre la mentira, como el aceite sobre el agua. なぜというに、真実はやせても切れぬし、油が水のうえに浮くごとく、つねに偽りのうえに出るからだ。”(続編一、永田寛定訳)

1681. Verdad (La) es como el aceite, que siempre queda encima.

真実は油のように いつも上に浮く

- 真実は、表面に浮かび上がってくる油のように、隠そうとしても常に明るみに出てくる強さを持っているものである。(バロス)
- コレアス諺集には、次の異表現 “La verdad, como el olio, nada en somo. 真実は油のように上に漂う” (olio—oleo—油, somo<もう使われていない表現>—encima, en lo más alto—上に、一番高い所に)、“La verdad, como el olio, siempre anda en somo. 真実は油のように、いつも上に浮く”、“La verdad y el olio simepre anda en somo. 真実と油はいつも上に浮んでいる” など。
- “La verdad—真実” に関しては、その他にも次のような一連の諺がある；“La verdad ama la claridad. 真実は、明白を愛する”、“La verdad amarga y la mentira es dulce. 真実は苦く、虚偽は甘い”、“La verdad aunque amargue se diga y se trague. 真実は苦くとも口に出し、こらえよ”、“La verdad es hija de Dios y la mentira del diablo. 真実は神の娘、虚偽は悪魔の娘”、“La verdad huye de los rincones. 真実は奥深いところから逃げる” など。

- 例題：ドン・キホーテ第二部 10 章，同義の異表現が次のように出ている，“...la verdadsiempre anda sobre la mentira, como el aceite sobre el agua. 真実は...油が水のうえに浮くごとく，つねに偽りのうえに出るからだ。”（続編一，永田寛定訳）ドン・キホーテの著者がドン・キホーテの狂気を包み隠さず語ることを言う。
- 真実は常に明らかにされる，神はどんなことでも見過ごすようなことはしないから，神を斯くことはできないという主旨の諺がこちらにもいくつかある，“神は見通し”，“天に眼”，“神の目は眠ることがない”，“天網恢々疎にして漏らさず”など。

**1682. Verdades (Las) de Perogrullo, que a la mano cerrada
llamaba puño.**

ペルグルジョの真実とは 閉じた手を
握りこぶしと呼ぶことである

- 証明することが不必要なほど明白なことを述べる人に向かって言う。（バロス）わかりきった当たり前の真実をわざわざ口に出して告げる人を嘲笑って言う。（筆者）
- “Perogrullo” は，人の名前で “Pedro grullo” と “Perogrulladas” とも言う。イリバレン（格言の由来）は，スペインの博学者であり作家である José Godoy Alcántara（1825–1875）を引用して次のように言う；“Pero Grullo” の名前は，“Aguilar de Campoo”（スペインのカスティーリャ地方のバレンシアにある村）の社寺の記録によると，1213 年，1217 年の書類の証人として出てくる。また，17 世紀初頭の “La pícaro Justina” の作者は，Pero Grullo はアストゥリアス人（スペイン北部の地方）だと言う。
- 日本には，ごく当然のこと，分かりきっていることをたとえて次のように言う；“雨の降る日は天気が悪い”，“犬が西向きゃ尾は東”，“鶏は裸足”，“柳は緑花は紅” など。これらとは正反対の見え透いた嘘とか，理を非に，非を理に無理にこじつけることをたとえて次のように言う；“鷺を烏”，“烏を鷺”，“鹿を指して馬と為す”，“白を黒”，“雪を墨”，“這っても黒豆” など。

1683. Verdad (La) es verde; quien la dice, no medre.

真実は青い；それを言う者は 出世しない

- ここで言う真実が，“verde=青い（未熟な）”とは，真実というものは “áspera=苛

酷で, amarga—つらい” という意味である。諺の主旨は本当の事は言うべきではないと言っているのではなく、本音を喋る者は、己の人生の道を切り開いていく道程で多くの困難に出会うであろうということをおしえているのである。(バロス)

- すでに筆者の諺辞典では、話す時にはよほどの注意が必要であるという主旨の諺を次のように多数見てきた；“Cuando estuvieres con él vientre con vientre, no le digas cuanto se te viniere a la mente. たとえ腹を割って話す仲でも、思いつくままにべらべら話すな” (諺 342), “Cuanto sabes no dirás, cuanto ves no juzgarás, si quieres vivir en paz. 知っていることぜんぶ言うな, 見たことぜんぶ咎めるな, もし平和に暮らしたいなら” (諺 356), “Los locos y los niños dicen las verdades. 愚か者と子供だけが、本当のことを言う” (思慮の足りない人は、思いつくままに何でも率直に話す, 諺 746), “El loco en la frente trae el cuerno; y el cuerdo; en el seno. 愚者は額に角を生やし, 賢者は、懐に生やす” (思慮の浅い人は、すぐに自分の内密な事柄をべらべらと喋ってしまうが、賢明な人はそういうことはしない, 同諺 746), “Mal me quieren mis comadres porque les digo las verdades; me quieren mis vecinas porque les digo las mentiras. 本当のことを言うから、身内はわたしを嫌っている；嘘を言うから隣の人はわたしを好いてくれる” (諺 804) など。
- 度々引用してきたが、やはり旧約聖書の“箴言”のページを繰れば、われわれに次のような注意を促してくれるだろう；“El chismoso no sabe guardar un secreto, así que no juntes con gente chismosa. 秘密をばらす者, 中傷し歩く者, 軽々しく唇を開く者とは、交わるな。” (箴言 20—19—20), “El que tiene cuidado de lo que dice, nunce se mete en aprietos. 自分の口と舌を守る人は苦難から自分の魂を守る。” (箴言 21—23—24)
- 日本でも、“良薬口に苦し”, “忠言耳に逆らう” などと言われているように、たとえ真実であろうと、自分の欠点、不徳などを人から指摘されるのは辛いし、不愉快である。

1684. Vergüenza (La) y la honra, la mujer que la pierde nunca la cobra.

女が 名誉を失えば 決して取り戻せない

- ひと昔前の時代には、世間から女に対しては特に厳しい目が注がれていた。現代でも

まだ、そういう風潮はどこでも残っている。

- 類義の諺が次のように見られる；“La doncella honrada, la pierna quebrada y en casa. まっとうな娘は、足悪くして、家にいる”（若い娘は、あまり外を出歩くなと戒めている、筆者の諺辞典、諺 432 を参照），“La honra y el vidrio, no tienen más que un golpecillo. 名誉とガラスは、一撃で壊れる”（名誉というものは、簡単に汚され、損なわれるので、一生懸命守らなければならない、同諺辞典、諺 694 を参照），“La mujer casada y honrada, la pierna quebrada y en casa, y la doncella, pierna y media. 結婚している律儀な女は、足折って、家の中、また、まっとうな娘も、同じ”（自由がありすぎる女は問題である、同諺辞典、諺 995 を参照），“No basta ser honrada, sino parecerlo en trato y casa. 女は貞淑であるだけでは足りぬ、つきあいや外見にそう見えなければ”（口さがない世間に対してそう見えなければ何にもならないということ、同諺辞典、諺 1062 を参照），“La pierna quebrada y en casa. 足悪くして家にいる”（女に慎み深さと家に居ることを勧めている、同諺辞典、諺 1320 を参照）など。

1685. Ver la mota en el ojo ajeno y no ver la viga en el nuestro.

隣人の目に 塵が見えるのに
自分の目の中の丸太に 気づかない

- 他人の間違いは、どんなに小さくても非難するのに、自分のそれより大きい間違いは、多くの場合気づかないことをいう。（バロス）人というものは、他人の過ちはすぐに責めるが、おうおうにして自分の重大な過ちにさえ気づかないのである。（筆者）
- 新約聖書のマタイ福音書（7-3）からきているこの格言には、いろいろな異表現がある。すでに筆者の諺辞典でも次のような異表現を取り上げてきた；“En el ojo de su vecina ve una paja y en el suyo no ve una tranca. 隣人の目におが屑が見えるのに、自分の目の中の丸太に気づかない”（諺 542 を参照），“La paja vemos en el ojo ajeno y no la viga en el nuestro. 隣人の目におが屑が見えるのに、自分の目の中の丸太に気づかない”（諺 1243 を参照），“Ver la mota en el ojo ajeno y no la viga en el nuestro. 標題の訳と同訳”（コレアス諺集），“Echar de ver la paja en el ojo del vecino y no advertir a la viga que trae sobre el suyo. 隣人の目におが屑が見えるのに、自分の目の中の丸太に気づかない”（宝典、コバルピアス），“Vemos

la paja en el ojo ajeno, y no la viga de lagar en el nuestro. 隣人の目におが屑が見えるのに、自分の目の中の（桶の）丸太に気づかない”（スバルビィ諺辞典）など。

- 例題：ドン・キホーテ第二部 43 章、これから島の太守になろうとしているサンチョは、自分の悪口は誰にも言わせぬという。この諺を引用して、他人の間違いをとやかく言う者は、おのれの間違いに気をつけろといきまく、“...Así, que es menester que el que vee la mota en el ojo ajeno, vea la viga en el suyo, ...だからね、他人の眼んなかの塵がめえるんだったら、自分の眼んなかのうつばりもめえなきゃいけねえだ。（続編二、永田寛定訳）
- 人というものは、たとえたいしたことでもないのに他人の欠点には我慢がならずすぐに非難したくなるものである。そういうわれわれの弱点を突いたのがイエスのおしえであり、そこからきた格言である。日本にも次のような巧みな諺がある；“人の背中は見えるが我が背中は見えぬ”，“人の一寸我が一尺”，“人の七難より我が十難”など。

1686. Verterse el vino es buen sino; derramarse la sal es mala señal.

ワインをこぼすのは 良いしるしだが
塩をこぼすのは 悪い前触れ

- これは、単なる迷信である。（バロス）
- こういう迷信は、日本にもある。たとえば、霊柩車に出会って親指（ここでは親の象徴）を隠さないと親が死ぬとか、道を歩いていて黒猫が前を横切ったら、何か悪いことが起こるなどといったたぐいのものである。

1687. Vestidos dan honor, que no hijos de emperador.

衣裳が名誉を授けるのであって
皇帝の子息だからではない

- 名誉を授けるのは、立派な衣裳であって、皇帝の息子という地位ではない。たとえ高貴な人であろうと、粗末な衣服を着用していると見下されるのである。（コレアス諺集）立派な衣裳は、ぼろを纏っている身分の高い人より丁重に扱われるということ。（バロス）
- 筆者の諺辞典、諺 272 には、多数の同義の諺が次のように見られるので参照して下

さい；“Compuesta, no hay mujer fea. 馬子にも衣裳”，“Compuesta una pala, parece dama. 着飾ったシャベルは，貴婦人に見える”，“Compón un sapillo, y parecerá bonillo. ひきかえるも飾れば，美男子に見えるだろう”，“Con buen traje se entra y encubre el ruin linaje. 立派な衣裳は，お里を隠す”，“Afeitado un cepo, parecerá mancebo. 猿もひげを剃れば，若者に見えるだろう”，“Mujer compuesta, quita al marido de otra puesta. おめかしした女は，よその亭主をとってしまう”，“Las apariencias engañan. 外見は斯く”など。

- こちらでは，よく知られている“馬子にも衣裳”を筆頭に，その異表現の“馬子にも衣裳髪かたち”，“鬼瓦にも化粧”，“木偶も髪かたち”，“猿にも衣裳”などがある。

1688. Vezaste tus hijas galanas, cubriéronse de hierbas tus sembradas.

乳母日傘育ちの娘たち
作物を雑草でいっぱいにして

- 物が豊富で贅沢な環境で育てられた娘たちは，（親から受け継いだ）農園をほったらかしにする危険がある。（パロス）
- “Vezar—avezar—acostumbar—慣れさせる”，“Vezaste～galanas～を贅沢に慣れさせた”
- 類義の諺には“Madre acuciosa, hija vagarosa. 働き者の母に，怠け者の娘”（筆者の諺辞典，諺 785 を参照），“Las madres hacendosas hacen las hijas perezosas. よく働く母は，ものぐさな娘をつくる”（同諺 785），“Perro alcucero, nunca buen conejero. 甘やかされた犬は，兎を捕らえない”（同諺辞典，諺 1296 を参照）などがある。昨今は，いっそのこと“子孫に美田を残さず”（<Ni al buen hijo heredar ni al mal dejar. 良い息子であろうと，悪い息子であろうと，財産は残すな>，同諺辞典，諺 1036 を参照）という親も増えている。
- 日本でも，昔から同じようなことが言われている；“親苦労す，子は楽す，孫は乞食す”，“父骨を折り子楽をして孫乞食をする”，“長者に二代なし”，“親の甘いは子に毒薬”など。

1689. Vicio es no tener amigos y mudarlos de continuo.

友人を持たないのも 絶えず変えるのも よくない

- 厳格すぎるのも、気まぐれなものもよくないと教えている。(パロス)
- 筆者の諺辞典では、友人について謳われている諺が次のように多数あるので参照して下さい；“Al amigo, con su vicio, se le debe querer y atender. 友のことは、欠点も好きになり、気にかけてよ” (諺 30), “Amigo del buen tiempo, múdase con el viento. 晴れの時の友は、風向きで変わる” (諺 57), “Amigos de muchos, amigo de ninguno. 全ての人の友は、誰の友でもない” (諺 58), “Amigo reconciliado, enemigo redoblado. 仲直りした友は、強敵となる” (諺 59), “A tu amigo gánale un juego y vuelve luego. 友に一勝ちしたら、さっさと引き上げよ”, “El buen amigo es espejo del hombre. よき友は、己の鏡” (諺 153), “Con buena correspondencia, la amistad se conserva. 友を失いたくなければ、便りせよ” (諺 274), “Cuenta y razón sustentan amistad y unión. 気づかいと分別が、友情と連帯をささえる” (諺 358), “El que no tiene amigos, tema a los enemigos. 友人がいない者は、敵を怖れよ” (諺 494), “El que se vive solo y desfavorecido, aconséjese con los refranes antiguos. 一人っきりで、ひき立てのない者は、古いことわざを調べなさい” (諺 504), “En el peligro se conoce al amigo. 危険にさらされた時に、真の友がわかる” (諺 544), “La envidia del amigo, peor es que el odio del enemigo. 友のねたみは、敵の憎悪よりこわい” (諺 570), “Extremo es creer a todos y yerro no creer a ninguno. だれもかれも信じるのは、極端だし、だれも信じないのも、間違い” (諺 595), “Ganar amigos es dar dinero a logro y sembrar en regadío. 友を得るということは、高利で金を貸し、溜め池に種を蒔くようなもの” (諺 612) など。
- 旧約聖書でも“amigos-友”については、随所で触れているが、ここではシラ書の中の“La verdadera amistad-真の友情”のいくつか、上記の諺と類似している箇所を引用することにする；“Que sean muchos tus amigos, pero amigo íntimo sólo uno entre mil. 多くの人々を友にせよ、だが、親友は千人のうち、一人だけにせよ。Si consigues un amigo, ponlo a prueba; no confíes demasiado pronto en él. 友をつくるときは、試してからにせよ。すぐに彼を信頼してはいけない。Porque

algunos son amigos cuando les conviene, pero no cuentas con ellos cuando los necesitas. 都合のよいときだけ友となり，必要とするときには，離れてしまう者がいる。”(6-6-9), “Algunos son amigos a la hora de comer, pero cuando te va mal no los encuentras. 食事のときだけ友であり，苦難のときには，離れてしまう者がいる。”(6-10-11), “Un amigo fiel, es una protección segura; el que lo encuentra ha encontrado un tesoro. 誠実な友は，堅固な避難所。その友を見いだせば，宝を見つけたも同然だ。Un amigo fiel no tiene precio; su valor no se mide con dinero. 誠実な友は，何ものにも代え難く，その値打ちは計り難い。”(6014-16)

- 日本では，友との理想的な交わりは次のようだとされている；“君子の交わりは淡きこと水の如し”，“れい水の交わり”，“親しき仲に礼儀あり”，“親しき仲に垣をせよ”など。

1690. Vida (La) pasada hace la vejez pesada.

過ぎし過去に 悔恨の老後

- “命長ければ恥多し”の心境で，長生きすればするほど，人と交わる機会とか，物ごとの経験の度合いも多くなる。それら諸々な事を思いだしては，あれこれ悔やんだり，恥じ入ったりして，老後は安らかな気持ちで過ごすことができないのである。
- また，誰も避けて通れない老後，或は，人の死を謳った諺が次のようにある；“La mocedad holgada trae la vejez trabajada. 若い時に怠けていたら，年とってから苦労する”（筆者の諺辞典，諺 946），“El que de joven no corre, de viejo trotar. 若い時に走らなかつた者は，年とって早足で駆ける”（同諺 946），“Vida de ganapán, vida angelical, comer y beber en la taberna, morir en el hospital. 苦難の一生とは，天使のような生，居酒屋で食べて飲んで，病院で死ぬこと”（コレアス諺集），“Vida sin amigo, muerte sin testigo. 友のいない人生は，証人がいない死をもたらす”（同諺集）など。
- 標題の諺とは反対に，長生きをすれば，幸運に巡り合うこともあるという諺がこちらにはある；“命長ければ蓬萊を見る”（＜蓬萊＞とは，中国の伝説で，仙人が住んでいるといわれる霊山—故事ことわざ活用辞典），“命長ければ巡り合う”など，長生きをすすめている。

1691. Vieja (La) gallina hace buen caldo.

年寄りの雌鳥で おいしいスープ

- 文字通りの意味とは別に、ある年齢に達した女性を皮肉っている。(パロス)
- 類義の諺には “La vieja gallina hace gorda la cocina. 年寄りの雌鳥で、おいしい料理” がある。
- “宝典” (コバルピアス) には、“La vieja gallina—年寄りの雌鳥” について、次のようなユーモアたっぷりの諺と説明が収載されている；“<No digáis después: vieja fue y no se coció (雌鳥が) 固かったので、よく煮えなかったとは言うな>本当は、女房がナベを丁度いい時間に火にかけなかったので、ナベの中の雌鳥が柔らかく煮えなかったのだが、亭主にはこの鳥は年取っていたから固いのだと言ひ訳をした。そこからこの諺はきている。”

1692. Vieja (La) raposa, con lazo no se toma.

年寄りの雌狐は わなでは捕れない

- 経験豊かな老婆は、やすやすと騙されない。
- 類義の諺には “Vieja escarmentada, arregazada pasa el agua. 懲り懲りした老婆は、スカートをたくし上げて水たまりを渡る” (コレアス諺集)、“Vieja escarmentada pasa el vado arregazada; el río arremangada. 懲り懲りした老婆は、スカートをたくし上げて浅瀬を渡る；裾をまくり上げて川を渡る” (コレアス諺集)、“Vieja escarmentada pasa el vado rezagada. 懲り懲りした老婆は、浅瀬をゆっくりと渡る” (パロス諺集)、“A perro viejo, no tus tus. 年季の入った犬には、<おいで、おいで>はきかぬ” (年をとった犬は、簡単にお世辞とか食べ物で騙せない、筆者の諺辞典、諺 77)、“Más sabe el diablo por viejo que por diablo. 悪魔は、老いているからこそ、知恵がある” (同諺辞典、諺 854) などがある。
- 日本では、年をとった人の豊かな経験に裏付けされた知恵、道理、分別などをたとえて “亀の甲より年の劫”、“いかの甲より年の劫”、“老馬の智” などという。

1693. Viejo (El) en su tierra y el mozo en la ajena, mienten de una manera.

年寄り、地元で 若者は、他所で
同じように嘘をつく

- 年寄りは、自分の住んでいる土地でも誰も見たことがないことについて嘘をつくが、同様に若者は、自分が以前住んでいた土地でさえも本当に起こったことのように他所で嘘をつく。(パロス) 誰もかれも確かめることが出来ないことについては、嘘をつくことができるということ。一例を上げれば、老婆は、自分が若かった頃、どんなに男にもてたか、どんなにたくさんの求婚者がいたかななどを隣人にとくとくとして話すだろう。また、他国に住んでいる者は、自国で自分の置かれていた状態、状況などを好きなように脚色して語るができるであろう。だから、話を聞いている者が何か腑に落ちない、納得がいかないような時に、話しをしている当の相手に向かって標題の諺を言うのである。(筆者)
- コレアス諺集には、次の異表現 “El viejo en su tierra y el mozo en la ajena, miente de una manera; o mienten cuanto quieren, o cuanto pueden. 年寄り、地元で、若者は、他所で同じように嘘をつく；或は、好きなように嘘をつく、或は、可能な限り嘘をつく”；“El viejo miente en su tierra y el mozo en la ajena. 年寄りは自国で、若者は、他国で嘘をつく” が収載されている。
- 見出しの諺に関連した次の諺は、すでに見てきた；“El que fuera se va a casar, o va engañado o va a engañar. 他国で結婚しようとしている者は、騙されているのか、それとも騙そうとしている” (結婚するなら行状がよくわかり、信用できる相手とするべきである。他国では、相手の信用調査をすることが難しい、筆者の諺辞典、諺 497 を参照)

1694. Viejo (El) que no adivina, no vale una sardina.

予想できない年寄り、何の値打ちもない

- 何故なら、年寄りというものは、経験に裏付けされた分別から忠告をしていても、たいがいの場合、占い師が予言をしているように聞こえるから。(パロス)
- 類義の諺には “El que a los cuarenta no atura y a los cincuenta no adivina, a

sesenta desatina. 四十にして分からず、五十にして当らなければ、六十にして杳然自失なり” (筆者の諺辞典, 諺 463 を参照), “Harto es necio quien a los sesenta años no adivina. 六十にして当らぬ者は、大いなる愚者である” (今までの経験を活かすことが出来なかった。同諺辞典, 諺 655 を参照)。“Hombre cano, ni viejo ni sabio. 白髪が、年取っていたり、物知りとは限らない” (年を重ねたからといって賢くなるわけでもない“(同諺辞典, 諺 686 を参照), “El viejo por no poder y el mozo por no saber, dejan las cosas perder. 年寄り、出来ぬことにより、若者は、知らぬことにより、物事を駄目にする” などがある。昔は、五十、六十ですでに年寄り扱いされていた。ある程度の年齢に達すれば、経験及び思慮分別から、これから起こる事を予想したり、未来を見通す眼力があるのは、当然であるということ。それがないと、老後は悲惨なこととなる。

- “El viejo—年寄り” については、次のような諺がある；“El viejo pajar, cuando se enciende peor de apagar. 古くなったわらは、消すのが大変” (年取ってからの恋愛を指す—コレアス諺集), “Viejo pajar, malo de encender y peor de apagar. 古くなったわらは、火がつけにくく、消すのはもっと大変” (年寄りの情熱をたとえて言うが、本来は、乾燥したわらは、火が燃えやすく、消すのに手間がかかる—コレアス), “El viejo que se cura, cien años dura. 病気から回復した年寄り、百歳まで生きる”, “El viejo y el horno, por la boca se calienta: el uno con el vino y el otro con la leña. 年寄りとかまどは、口から熱くなる、つまり、ワインと薪によって” などがある。

1695. Viejo verde.

好色な老人

- スペイン王立アカデミー辞書から “Verde” の主要な意味を標題の口語的表現に関連づけて見てみよう； 1) 青春期の若々しさ、みずみずしさ, Verdes años—若年 2) ある種の小説, ドラマ, 詩歌などを特徴づける形容詞, 下品な, 猥褻な, みだらな, Chistes verdes—きわどい冗談 3) 年齢, 法律上の身分にふさわしくない奔放さ, 色気を保っている人, Viejo verde—好色なじじい Viuda verde—奔放大胆な未亡人
- コバルピアス (宝典) によると, “Verde” とは, “青々とした草とか, 植物の色。”

“Estarse uno verde” とは、“すでに青年期に入っても青年のみずみずしさを失わない人をいう”

- イリバレン（格言の由来）は、“Verde” という言葉の意味は、時代によって変わったという。Fernando Lázaro の “Del viejo verde al chiste verde—好色な老人からきわどい冗談”（ABC 新聞、1953 年 9 月 1 日）を引用して次のように説明している； “スペイン人だけが <Verde> を <Obsceno—猥褻な、みだらな> と同義に使っている。 <La verde vejez> は、以前は <若々しい年寄り> を意味していた、イタリア語やフランス語は、今でもその意味を保っている。しかし、スペイン人の間では、17 世紀に <猥褻な、いやらしい> という意味を持つようになった。18 世紀には、 <El viejo verde> は、奔放な媚びを売る女たちの間を不自然なみせかけの勇ましきでめぐる白髪頭の痛風病みのじじいを意味した。今日では <Obsceno—わいせつな> の意味が一番強いが、19 世紀には <好色なきわどい> などの意味で、ある種の冗談、小説、ドラマなどを特徴づけた。” イリバレンは、更に続けてこう説明している； “おいぼれの年寄りとか熟年者を指している <Estar verde> も 16 世紀には、 <若々しい、活気ある年寄り> を意味していた。すでに見てきたように現在、 <Verde—緑色> には、 <Obsceno—わいせつな> という意味があるが、何世紀か前には、その意味の形容詞には、もっと強烈な色 <Rojo—赤い、colorado—赤い> を用いてきた。例えば、コレアスの <Cantares y cuentos colorados>（Vocabularios de Refranes）は、 <みだらな歌と物語> を意味していた。また、1791 年版の <Diccionario de Autoridades de la Real Academia> では、 <Palabras coloradas> を <明白な言葉> という意味だけではなく <卑猥な～> という意味をも指していた。今日では、 <Un chiste obsceno—きわどい笑話、Un cuento obsceno—卑猥な物語> などを意味する形容詞 <Colorado. verde> の代りに、 <～de color subido> とか、 <～muy subido de color> などという表現が用いられている”

1696. Viene ventura a quien la procura.

幸運は 求める者のところに やって来る

- 幸運は、ただ運によるものではなく、それを強く求め、つかまえる努力をすることが大切であるというおしえ。何もしないで、よい結果だけを手に入れようとしても、得られるものではないということ。

- コレアス諺集には、異表現の “Viene ventura a quien la busca. 幸運は、探す者のところに、やって来る” がある。類義の諺には “A Dios rogando y con el mazo dando. 槌をふるいながら神に折れ (天は、自ら助くる者を、助く)” (筆者の諺辞典, 諺 15 を参照), “Ayúdate y te ayudaré. 神は、自ら助くる者を、助く” (同諺辞典, 諺 121 を参照) などがある。それとは反対に、人の運は天命によって定まっているということわざには, “Viene lo que Dios quiere. 運は天にあり”, “Viéneme el mal que me suele venir, que después de harto me suelo dormir. いつものように悪運がやって来る, うんざりしたら, いつものように眠ってしまおう (運を天に任せろ)” などがある。
- 日本にも同義, 反義のことわざが多数ある; よく聞くのが次の “蒔かぬ種は生えぬ”, “禍福己による”, “禍福門なし唯人の招く所”, “打たねば鳴らぬ”, “果報は寝て待て”, “開いた口へ牡丹餅”, “待てば海路の日和あり” などであろう。

1697. Viento (El) que corre, muda la veleta, mas no la torre.

ひと吹きの風で、風見はくるくる 塔はどっしり

- 些細なことですぐに変わるような気まぐれで、臆病、軽率な人に対してしっかりと安定した、確固たる信念を持った勇氣ある人をたたえている。(コレアス)
- 同じ “La torre—塔” でも、土台がしっかりしていなければ “Con poco viento cae en el suelo torre sin cimiento. 土台のしっかりしていない塔は、少しの風でも倒れる” (筆者の諺辞典, 諺 289 を参照)
- “Veleta—風見, 移り気な人, 気まぐれな人”

1698. Vino (El) como el rey y el agua como buey.

ワインは王のように 水は牛のように 飲め

- 健康のためにワインは、控えめに飲むのがいいが、水は好きなだけ飲むがいい。(バロス)
- 同義で異表現の “El agua como buey, el vino como rey. 水は牛のように, ワインは王のように, 飲め” がある。
- “宝典” (コバルビアス) によると、たくさん水を飲む人を “Bebe más que un buey. 牛よりたくさん飲む” というそうである。それほど牛は水を大量に飲むので、標題の

諺でも比喩として用いられているのであろう。

- ワインに関する諺は、次に列記するように多数ある；“El vino alegra el ojo, limpia el diente y sana el vientre. ワインで、眼は輝き、歯はきれいになり、腹は調子がいい”，“El vino anda sin calzas (bragas). ワインは、パンツなしで歩くのと同じ”（ワインをたくさん飲み過ぎると、パンツなしで歩いているのと同じくらいの恥ずかしいおもいを後でする—コレアス），“El vino, comido mejor que bebido. ワインは、飲むより食べて”（ワインは、食べながら飲むと、すぐに酔っばらうおそれがなくなる、また、スープに入れると、飲みものというより、強壯剤となる—バロス），“El vino ha de ser comido, y no bebido. ワインは、食べるものであって、飲むものではない”（スープに入れると、胃の中で留まっている時間が長く、薬のような効果がある—コレアス），“El vino es la teta (la leche) del viejo. ワインは、年寄りのミルク”（同じような効果がある—筆者），“El vino tiene estas tres propiedades; que hace dormir, y reir, y las colores al rostro salir. ワインには、次の三つの効能がある、眠らせ、笑わせ、顔を輝かせる”，“La leche y el vino, hacen el viejo niño. 牛乳とワインが、年寄りを赤ん坊にする”（筆者の諺辞典、諺 733 を参照），“Pan y vino andan camino, que no mozo garrido. 旅の道連れには、いい男よりパンとワイン”（同諺辞典、諺 1255 を参照）など。

1699. Vino (El) demasiado, ni guarda secreto ni cumple palabra.

ワインを飲み過ぎると 秘密はばらすし

約束は守らぬ

- 同義の諺が、スバルビィ諺辞典に “Cuanto vino entra, tantos secretos salen. ワインが入れば入るほど、秘密がぼろぼろ出る”（酔っばらひは、たとえどんなに重要な秘密でもしまっておくことが出来ない—スバルビィ）、また、コバルビアスの “宝典” に “El vino no trae bragas ni de paño ni de lino. ワインは、毛糸でも麻でも、どんなパンツもはかせない”（何故なら、ワインをたくさん飲むと、秘密が守れなくなるから—コバルビアス）が収載されている。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 43 章、これからいよいよ島の太守になるというサンチョへのドン・キホーテの忠告の一つ。飲むのはほどほどにせよ，“... , considerando que el vino demasiado ni guarda secreto, ni cumple palabra. 酒が過ぎれば、秘

密は保てぬし、約束は守れぬことを考えてな。”(続編二、永田寛定訳)

- だから、“酒は飲んでも飲まれるな”と戒めているのが日本の諺である。“酒は諸悪の基”、“酒は百毒の長”という諺もあるが、もちろん、適度に飲むならば“酒は百薬の長”、“酒は天の美禄”ともなる。

1700. Vino (El) que es bueno, no ha menesterregonero.

上等なワインは 宣伝の必要がない

- よいものは、宣伝しなくてもよく売れる。
- 同義の諺には、“El buen paño en el arca se vende. 良い布は、箱に入れて売られる”がある。特に、すでに顧客の間ではよく知られ、信用を勝ち取っている品物については宣伝する必要はない。諺につきものの反義の諺も次のようにある、“El mal paño en el arca se vende, mas el bueno verse quiere. 悪い布は箱に入れて売られ、よい布は見せて売られる”(悪いものは、なるだけ疵を隠したいが、良いものは堂々と見せても構わないという意味—筆者の諺辞典、諺 808 を参照)

1701. Viña entre viñas y casa entre vecinas.

ブドウ園は ブドウ園に囲まれて

屋敷は 隣人に囲まれて

- あるのがいい。何故なら、離れた所にぽつんとあるブドウ園は、通りがかりの人の誘惑の犠牲になるし、孤立して建っている一軒家は、どこともつきあうことができない怖れがあるから。(パロス)
- 類義の諺には“Ni casa cabe río, ni viña cabe camino. 川の傍らの家も、通りの傍らのブドウ園もごめんだ”(一方では、川の氾濫やがけ崩れの怖れがある、他方では、動物や人間にブドウ園が荒らされ、果物が盗まれる怖れがある—筆者の諺辞典、諺 1042 を参照)がある。また、住むのに望ましくない場所が、次の諺では列挙されている；“Ni cabe río, ni en lugar de señorío hagas tu nido. 川の傍らにも、領主の傍らにも家を持つな”(川の近くは危険だし、領主の支配下にあるのは窮屈である—同諺 1042)、“Ni cabe peña, ni cabe río, ni en lugar de señorío, no armes castillo. 岩山とか川、或は、領主の近くには城を建てるな”(川には、氾濫の怖れ、岩山にはがけ崩れの怖れがある—同諺辞典 1042)、“Ni casa en cantón, ni cabe mesón. 角地

に、また、メソンの傍らに家を建てるな“(角地の家には風が当たるし、メソンの傍はうるさい—同諺辞典1042), “Ni casa en cantón, ni viña en rincón. 角地に家を建てるな、隅っこにブドウ園を作るな”(二本の道が交差した角にあるブドウ園は、そこを通るあらゆるものから甚大な被害をこうむる—同諺1042) など。

- 日本でも、土地とか家屋を選ぶ時には、自然の環境、交通手段の他にも風水による吉凶、縁起などいろいろと考慮しなければならない問題がある。どこでもいいという訳にはいかないのである。あまりにも考慮し過ぎると“^{ほうい}かの家潰し”(方角の吉凶にこだわり過ぎると、家をつぶすことになる)となる。

1702. Viña (La) guárdala el miedo, que no el viñadero.

ブドウ園は 怖れが守るのであって
ブドウ園主ではない

- 財産というものは、損なわれてしまう、盗まれてしまうという怖れの感情が所有者を駆り立てて守られていくのである。
- 筆者の諺辞典の次のような一連の諺が、それを正く言い当てている；“Cuanto mayor es la fortuna, es menos segura. 財産は、あればあるほど安心できぬ”(諺355), “Dios te dé ovejas e hijos para ellas. 神は、あなたの親羊、子羊を授けてくださる”(財産を所有している主人が、その財産を管理するのはとても重要である—諺426), “Guarda prado y hartarás ganado. 牧場を守れば、家畜でいっぱい”(諺627), “Guarda tu hacienda de noche y de día, y comerás gallina. 財産は、昼も夜も気をつけよ、そうすれば鶏が食べられる”(財産は、しじゅう目を配っていないと、直ぐになくなってしまふ代物である—諺631), “No conserva bien quien no aumenta. 増やさない者は、上手に保ち続けない”(諺1068), “El ojo del amo engorda el caballo. 飼い主の眼が、馬を太らせる”(財産の所有物などの管理をきちんとすることが己の利益につながるのである—諺1213), “El mejor pienso del caballo es el ojo de su amo; y con la cebada que le sobra fregarle la cola. 馬の最良の餌は、飼い主の眼である、そして、余った大麦でしっぽをきれいにしてあげなさい”(主人の細心の注意の重要性を言う、また、えさはたっぷり上げるのがいい—同諺1213), “El peligro que no se teme, más presto viene. 怖れぬ災難は、すぐに来て来る”(何事にも常に警戒を怠らぬ大切さをいう—諺1286), “El ojo del

amo, estiércol para la heredad; o el pie del amo; o del señor. 主人の眼／或は、主人の足は、田畑の肥料である”（主人の眼で注意深く気を配り、主人の足で田畑に足繁く通い働くということ—諺 1313）, “Los pies del hortelano no echa a perder la huerta. 農園家の足は、農園を駄目にしない”（諺 1321）など。

- 財産を守るということ—特に農園、果樹園、田畑、牧場など—は、これほど大変な仕事なのである。こういう労働、苦勞をしたくなければ“無いが極楽知らぬが仏”と謳っているように、貧に甘んじて気楽な生活を送ることができるのである。

1703. Vióse el perro en bragas de cerro, y no conoció a su compañero.

粗末なおむつをつけていた犬は
昔の仲間の顔忘れ

- 以前、下の階級にいた者が昇進したとおもったら、当時の同僚、仲間を軽蔑するようになった。（スバルビィ）成り上がり者をとがめている。（筆者）
- スバルビィ諺辞典、コレアス諺辞典には、同義で“Vióse el villano en bragas de cerro, y él fiero que fiero. 粗末なおむつをつけていた奴が、今や空威張り、空威張り”のほうが収載されている。
- その他の同義の諺には、“Cuando el villano está rico, no tiene pariente ni amigo. 卑しい者が金持ちになると、親戚も友人もなくなる”（上までのぼりつめた下賤な生まれの者は、すぐに当時の階級を忘れるものである—筆者の諺辞典、諺 339 を参照）, “La deleitosa vida, padre y madre olvida. 快適な生活が、父も母も忘れる”（同諺辞典、諺 392 を参照）, “De rico a soberbio no hay un palmo entero. 富みて驕るまで、ほんの鼻さき”（多かれ少なかれ、人は、金持ちになると驕ってくるものである—同諺辞典、諺 397）, “No dé Dios tanto bien a nuestros amigos que nos desconozcan. 成功した友は、旧友が分からない”（人は、成功したり、莫大な財産を手に入れると、すっかり変わってしまい、昔の友人もすぐ忘れてしまう—同諺辞典、諺 1071）などがある。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 50 章、亭主のサンチョが今や島の太守になって階級が上がったとすっかり思いこんでいる妻テレサと娘のサンチーカとの間でサンチョばりの諺をふんだんに織り交ぜてのユーモアあふれる会話がひとしきり続く、そしてサン

チーカがこう言いそえた，“...—que diga el que quisiere cuando me vea entonada y fantasiosa: <—Vióse el perro en bragas de cerro...>, y lo demás? おらがお姫さまみてえな、しゃなりしゃなりの格好するを見て、ひとが何と言おうと、<猿に烏帽子>と言わりよとままだ！(続編三、高橋正武)

注：1) “Vióse el villano en bragas de cerro y él, fieno que fieno. 粗末なおむつをつけていた奴が、今や空威張り、空威張り” 身分の低い者が成り上がったとたんに、昔の仲間を軽蔑しはじめたことをしかっている諺—Martín de Riquer の注釈による；Don Quijote de la Mancha, Miguel de Cervantes, スペイン王立アカデミー

2) “猿に烏帽子” —成り上がり者を軽蔑することわざに、<Vióse el perro en bragas de cerro, y no conoció a su compañero. 犬にたっつけ、昔の仲間の顔忘れ> というのがある。サンチーカは、このことわざの前半を、ここで言った。—注釈 (60), ドン・キホーテ, 続編三, 高橋正武

- 古今東西、人というものは、成功したり、出世すると、貧しかった時代の仲間を忘れたがるようである。まさに、中国の“貧時の交わり”(杜甫)という格言は、成功しても昔の貧しかった頃の友を忘れてはいけないと戒めている。

1704. Virtud (La) se ha de honrar donde quiera que se hallare.

善行は どこで行われようと
ほめられるべきである

- 徳の高い、立派な人物は、どこであろうとも人々の尊敬と称賛的となるはずである。(スバルビィ)
- 例題：ドン・キホーテ第二部 62 章，ドン・キホーテの招待主で富裕な騎士であるドン・アントニオ・モレーノは、キホーテの狂態を世間に知らせるための方法をいくつか考えた。そのうちの 하나가、キホーテの名前を書いた張り紙をキホーテ自身の背中に貼り付けて、街に連れ出したことであった。それで、多くの人の目を引いた。一人の男が、それ読んで<早くうちに帰れ、ばかもん！>とキホーテを罵倒し始めたのに対して、ドン・アントニオが諺を引用して次のようにたしなめた，“...; la virtud se ha de honrar dondequiera que se hallare, y andad enhoramala, y no os metáis donde no os llaman. ...徳行はいづくにあっても、称えなくてはなりません。さあ、とっとと行ってください。よけいなお節介はやめてもらいたい”(続編三、高橋正武)

訳)

1705. Viuda (la) llora y otros cantan en la boda.

一方では 夫を亡くして泣き

他方では 結婚式で笑う

- 一人ひとりの生きている状況というものは、とても異なっているのが世の習いである。故に、一方では、苦痛に浸っている者がいるとすれば、他方では、楽しく人生を謳歌している者がいるのである。(バロス)
- “La viuda—夫をなくした妻、つまり未亡人”を謳った諺は次のようにいくつかある；“La viuda honrada, su puerta cerrada. 慎み深い未亡人に、閉じられたドア”（こういう立場にいる女たちは、噂にのぼらないような節度ある生活を送ることが望まれるということ—バロス），“Viuda es, que no la faltará marido. (金持ちの) 未亡人は、夫に困らない”（一人になった金持ちの未亡人には、求婚者が多数現れるという意で、市場的に価値のある品物をたとえている—コレアス諺集），“Viuda lozana, o casada, o emparedada, o sepultada. 若々しい未亡人は、結婚するか、壁に囲われるか、埋葬されるかのどちらかだ”（女の名誉のためにも、親類の安心のためにも、すぐに結婚するか、修道院に入るか、神が連れていってくれるかがよい—コレアス諺集），“La viuda rica con un ojo llora y con el otro repica. 金持ちの未亡人は、片目で泣き、片目で（鐘を）鳴らす”，“La viuda y capón, sobre sí pon. 未亡人と若鶏は、自分のために盛りつける”（<Pon—pone>若鶏のように未亡人は太り、つやつやと輝やく。というのも好きだけゆっくりと食事ができるから—バロス）など。
- 現代の日本における夫に先立たれた女たちは、いきいきと残りの人生を楽しんでいる。統計によるとつれあいがいる妻たちより長生きするそうである。中国では、以前は、儒教に基づいたおしえの“貞女は両夫に見えず”（貞節な女は、生涯一人の夫に操を立て、再婚することはしない—史記）があった。中国でも、今はそのおしえを守る女性はいないであろう。

1706. Viva la gallina, aunque sea con su pepita.

たとえ病気持の雌鳥でも 生きるように！

- 持病持ちは、徹底的に治療して悪化させるよりは、それとほどほどにつき合って生きていくほうがよい。(スバルビィ)
- コレアス諺集には、次の異表現 “Viva la gallina con su pepita. 病気持ちの雌鶏でも生きるように！”，“Viva la gallina, y viva con su pepita. 同訳” が見られる。
- スペイン王立アカデミー辞書によると，“Pepita” とは，“雌鶏の舌にできる腫瘍のことで、それがあると、鶏は、コッコッと鳴くことができない” コバルピアスは，“Pepita” は，“雌鶏の頭の上にできる粘液のかたまり” であると説明している。“宝典” には，“Pepita—gallina” の組み合わせで次の諺 “¿De dónde la vino a la gallina la pepita? 雌鶏のその病気は、どこから来たの？” (或る女に悪い噂が立っているが、いったいその出所は、どこであるかを比喩的に言い表わしている—コバルピアス) が収載されている。
- 見出しの諺と反義の諺には，“Para poca salud más vale morirse. 病気がちであるより、死んだほうがまし” (筆者の諺辞典、諺 1265 を参照) がある。
- 例題 1：ドン・キホーテ第二部 65 章，果たし合いで銀月の騎士に敗北してすっかり意気消沈したドン・キホーテをサンチョが諺を使って励ます，“...; viva la gallina, aunque con su pepita; que hoy por ti y mañana por mí; ...命あっての物種でさ。きょうは人の身，あしたはわが身って言うだ...” (続編三，高橋正武訳)
注：“Pepita—雌鶏に起こるある種の病気” —Martín de Riquer, ドン・キホーテ第二部，スペイン王立アカデミー。
- 例題 2：セレスティーナ第 4 幕，“...Todo por vivir, porque, como dicen: <viva la gallina con su pepita>. 生きるためには，なんでもやります。諺にもありますように，ものが食べられない病気の雌鶏だって生きるようにですよ。” (魔女セレスティナ，大島正訳) 注：“Pepita—雌鶏の舌の裏にできる腫瘍で，これによりえさが食べられなくなり，やがて死んでしまう—Bruno Mario Damiani, La Celestina, Cátedra.

1707. Vivirás buena vida si refrenas tu ira.

もし 怒りを抑えるなら よい人生がおくれる

- 人というものは、怒っているとかく軽率な言動に走るの、極力それをおさえようと努力しなければならぬ。(パロス)
- コレアス諺集には、次の異表現 “Vivirás buena vida si refrenas, o contienes, tu ira. もし怒りを抑えるなら、よい人生がおくれる”, “Vivirás dulce vida si refrenas tu ira. もし怒りを抑えるなら、心地よい人生がおくれる”, “Vivirás quieta vida si aplacas tu ira. もし怒りを静めるなら、穏やかな人生がおくれる” など。
- “La ira—怒り” については、次のような諺がある; “La blanda respuesta, la ira quiebra; la dura, la despierta. 柔らかい返答は、怒りを鎮め、烈しい返答は、怒りをかき立てる” (筆者の諺辞典, 諺 142 を参照), “Lo que con ira se hace, desplace. 怒りで行われることは、人を不快にする” (同諺辞典, 諺 754 を参照), “El perro con rabia, a su dueño muerde. 怒り狂っている犬は、主人さえも噛む” (激怒している者は、正常な状態ではないのでとても危険である—同諺辞典, 諺 1297 を参照) など。
- 今度は、“vivir—生きる” ことについて、いくつかの諺を見てみよう、われわれが生きていくうえによい教訓となるかもしれない; “Vive bien y trata verdad, y vivirás con seguridad. 良く、且つ真摯に生きよ、そうすれば安心して生きられるから”, “Vive como se puede y no como se quiere. 好きなようにではなく、生きられるように生きよ”, “Vive en ciudad, por pequeña sea; casa con moza, por pobre que sea; como carnero, por caro que sea. 小さくても、都会に住みなさい; 貧しくても、若い娘と結婚しなさい; 高くても、羊の肉を食べなさい”, “Vivir en esta vida y no medrar, no es de envidiar. この世に生きて、成功しないなんて、少しもうらやむ人生ではない”, “Vivir, servir y pedir, hacen a los hombres huir (subir). 仕えて、ねだる人生は、人を逃亡させる (昇進させる)”, “El vivir templadamente hace sana y rica la gente. (何事も) ほどほどにして生きるのは、人を健やかにし、豊かにする”, “Vivir trabajando y no medrar, es gran pesar. 働いて生きているのに、生活が豊かにならないのは、大いなる苦痛である” など。

1708. Vivir más años que Matusalén.

非常な長生きである

- 旧約聖書の中のでてくるノア (Noé) 時代以前のユダヤの族長メトシェラ (Matusalén) は、非常に長生きしたと言われている。見出しの俗的な言い回しは、そのメトシェラと比較して非常に長寿を意味している。
- 旧約聖書、創世記5章の“アダムの系図”の中でメトシェラ (メトセラという) の年齢についてこう書かれている；“Matusalén tenía ciento ochenta y siete años cuando nació su hijo Lamec. メトシェラは187歳になったとき、レメクをもうけた。Después de esto, Matusalén vivió setecientos ochenta y dos años más, y tuvo otros hijos e hijas; メトシェラは、レメクが生まれた後782年生きて、息子や娘をもうけた。así que vivió novecientos sesenta y nueve años en total. A esa edad murió. メトシェラは、969年生き、そして死んだ。”(25-28)
このようにメトシェラは、969年生きたことになっているが、スバルビィ (諺辞典) によると、メトシェラは、紀元前4227年に生まれ、紀元前3308年に死んだそうである。これによると919年間生きたことになる。イリバレン (格言の由来) は、この頃は、計算の仕方が今とは違うと説明している。
- “非常に長生きである”と言い表わすので、やはり旧約聖書中の人物であるアブラハムの妻サラをもってきて次のようにいう；“Más vieja que Sarra” (コレアス諺集)，“Más viejo que Sarra” (宝典, コバルビアス) 神がアブラハムにサラを祝福し、諸民族の王となる者たちが彼女から出るとお告げになった時，“Abraham se inclinó hasta tocar el suelo con la frente, y se rió, mientras pensaba: <¿Acaso un hombre de cien años puede ser padre? ¿Y acaso Sara va a tener un hijo a los noventa años?> アブラハムはひれ伏した。しかし笑って、ひそかに言った。<100歳の男に子供が生まれるだろうか。90歳のサラに子供が産めるだろうか。>” (創世記17章17-18) また、イリバレンは、コバルビアスを引用して“sarra 或は, zarra” は、バスク語で“viejo, vieja一年寄り”を意味するとしている。
- 例題：ドン・キホーテ第二部62章、ドン・キホーテをからかうために練り歩きに連れ出した富裕な騎士、ドン・アントニオにドン・キホーテに対する余計な忠言はやめなされと言われた路上の見物人の一人、カスティリーヤの男がこう言う，“...si de

hoy más, aunque viviese más años que Matusalén, diere consejo a nadie, aunque me lo pida. きょうから後は、わしはたとえマトゥサレンより長生きしようと、頼まれたって、ひとに忠言がましいことは申しませんわ” (続編三, 高橋正武訳)

1709. Voluntad del rey no tiene ley.

王の欲するところに 法はない

- 強者が欲する事で成就できないことはほとんどない。(バロス) まさに、“力は正義なり”ということ。(筆者)
- 類義の諺には、“No han de faltar ni rey que nos mande, ni papa que nos excomulgue. われわれに命令する王様も、われわれを破門する法王もいなくなることはない”(弱者は、常に強者の主張に従わなければならない—筆者の諺辞典, 諺 1106 を参照), “Rey muerto, rey puesto. 王が死ねば、次の王が位に就く”(われわれに命令する者が、いなくなることはない—同諺辞典, 諺 1481 を参照), “Allá van leyes do (donde) quieren reyes. 王が欲する所ならどこへでも法律は行く”(ドン・キホーテ第一部 45 章では、荷鞍を馬の革具と無理矢理認めさせられる床屋がこういう<...pero allá van leyes..., etcetera... y no digo más; ... だがね、無理が通れば.....で、あとは言わねえよ.>正編三, 永田寛定訳—同諺辞典, 諺 1482 を参照), “Rey nuevo, ley nueva. 新しい王に、新しい法律”(同諺 1482 を参照) など。
- 権力があれば、道理にかなった正しいこともねじ曲げることができるということ。類義の諺には、“無理が通れば道理引っ込む” “道理そこのけ無理が通る”, “勝てば官軍負ければ賊軍” などがある。

1710. Voz (La) del pueblo, voz de Dios.

人民の声は 神の声

- 巷間でよく言われている格言で、ラテン語からきているらしい。(コレアス) “Voz del pueblo, voz del cielo. 人民の声は、天の声” とも言い、ラテン語では “Vox populi, vox Dei. 人民の声は、神の声” という (バロス)
- ほんの一握りの権力者に対して、大多数を占める民衆の要求に耳を傾けよということ。神は、常に弱者である被抑圧者の味方であるという神に対する信頼を述べている諺は次のように多数ある; “Las avechitas del campo tienen a Dios por su proveedor y

dispensero. 野の鳥は、神を食糧係りにしている”（困った状況に陥っても、最後には神が救って下さる—筆者の諺辞典、諺 118 を参照），“Cuando Dios amanece, para todos amanece. 神が夜明けにしてくださる時、みんなのためにしてくださる”（神は、よいことを特定の人だけにするのではなく、あまねく森羅万象のためにする—同諺辞典、諺 329），“Dios aprieta, pero no ahoga. 神はしめつけはするが、絞めはしない”（人は神を頼んで、逆境に耐えねばならぬ—同諺辞典、諺 424），“Dios, que da la llaga, da la medicina. おできをくれる神が、薬もくれる”（神は、人間に苦痛をもたらすことがあるが、同時にそれから救済する手だても与えてくださる—同諺辞典、諺 425），“Dios todo lo ve y oye da lo que conviene al hombre. 神はすべてをご覧になり、お聴きした後で、人に都合がよいものをお授けになる”（神はすべてをご存知である—同諺辞典、諺 427），“El hombre propone y Dios dispone. 人が考え、神が行う”（最大限の努力をした後は、その結果を神にお委ねするしかない—同諺辞典、諺 693），“Lo que Dios da, llevarse ha. 神がお与えになるものは、受けとらなければならぬ”（人生における試練にも耐えなければならぬ—同諺辞典、諺 757），“Lo que está de Dios, a la mano se viene. 神の御手にあるものは、手元に届く”（正当なものであれば、いつかは手に入れることができる—筆者の諺辞典、諺 761），“No da Dios a nadie más frío de como anda vestido. 神は、誰にも身につけている衣以上の寒さをお与えにならない”（神は、耐えられないような試練を人にお与えにならない—同諺辞典、諺 1069），“No desespere de auxilio divino, ni de la mujer de tu vecino. 神の救いや、隣のおばさんの助けをあきらめるな”（どんな苦境にしようとも、神を信じて耐えれば、思いがけない救いに恵まれるだろう—同諺辞典、諺 1073）など。

1711. Vulgo (El) no perdona las tachas a ninguno.

世間は だれの過ちも 許さぬ

- 自分以外の他者に対する世間の口はうるさく、少しの過ち、汚点をも見逃そうとはしないということ。
- 類義の諺には “El vulgar ignorante, a todos reprende y habla más de lo que menos entiende. 無知な大衆は、誰も彼もとがめ、何にも分かっていないことについてよく喋る”， “El vulgo juzga las cosas, no como ellas son, sino como se le

- antoja. 世間は、物事をそのままではなく、好きなように判断する”などがある。
- 新約聖書 (マタイ福音書 7-3) からとった次の格言が、われわれ人間の一番弱い欠点を端的に言い表しているであろう；“En el ojo de su vecina ve una paja y en el suyo no ve una tranca. 隣人の目におが屑が見えるのに、自分の目の中の丸太に気づかない” (筆者の諺辞典, 諺 542 を参照), “La paja vemos en el ojo ajeno y no la viga en el nuestro. 同訳” (同諺辞典, 諺 1243) つまり、人というものは、常に他人を厳しく裁き、どんなに小さな欠点も見逃してはくれず、自分の大きな欠点、過ちには気づかない厄介な生き物であるということである。だからこういう諺もある,
 “Quien mal canta, bien le suena. 下手な歌をうたっても、上手に響く” (自分がすることは最良であるということ—同諺辞典, 諺 1417 を参照), しかし、他人の欠点ばかりをあげつらっていると、やがては “Oye sus defectos quien no calla los ajenos. 他人の欠点をあげつらう者は、自分の欠点を聞くようになる” (自分のことは棚にあげて他人の悪口を言う者を咎めている—同諺辞典, 諺 1227 を参照)
 - 例題: セレスティーナ第9幕, カリストの従者の一人が、自分たちよりずっと上流のメリベア姫をこきおろしている女に次のように言う、ここでは見出しの諺が少し変えられている “Señora, el vulgo parlero no perdona las tachas de sus señores, おばば、世間の口というものは、上つ方の欠点を許さないもんだ。” (大島正訳, 魔女セレスティーナ)
 - 日本の類義の諺には “人の一寸は見えるが我が身の一尺は見えぬ”, “人の針ほど我が棒ほど”, “人の背中は見えるが我が背中は見えぬ” などがある。

Y

1712. Ya es viejo Pedro para cabrero.

ペドロは ヤギ飼いには もう年だ
 (年寄りの冷や水)

- もう年を取ってきたので、勉強したり、仕事をしたりするのは相応しくないという意。(スバルビィ) ある事に従事するにはすでに年を取り過ぎているということ。(パロス)

- コレアス諺集には、標題の諺とともに、次の異表現が見られる、“Ya es viejo Pedro para cabrero; o ya está Pedro duro para cabrero. ペドロは、ヤギ飼いにはもう年だ、或は、ペドロは、ヤギ飼いはもう骨が折れる”（もう悪ふざけはない、誰にも騙されるような年ではない、或は、今から勉強したり、仕事についたり、若い者がするようなことをするのは、もう遅いという意—コレアス）
- コバルビアスの“宝典”には、異表現“Viejo es Pedro para cabrero. ペドロは、ヤギ飼いには年を取り過ぎている”（若い時のように恋愛することもなく、もう静かに、穏やかに生活する年であるということ—コバルビアス）が収載されている。
- 類義の諺には“A la vejez, viruelas. 年寄りの冷や水”（筆者の諺辞典、諺44を参照）がある。
- 日本の諺の“年寄りの冷や水”、“老いの木登り”、“年寄りの夜歩き”と全く同じ意味である。高齢になっても、その年にふさわしくないことをする老人に向かって言う。

1713. Ya que el agua no va al molino, vaya el molino al agua.

水が水車のところに行かないなら 水車が水に
行けばいい

- 自然に反すること故に、立証できないような問題がある時、それを解決するために論理的な方法を探すことをいう。（スバルビィ）
- スバルビィ諺辞典には、次の同義の諺“Ya que el otero no viene a Mahoma, vaya Mahoma al otero. 山がマホメットのところに来ないなら、マホメットが山に行けばいい”（この格言は、メッカの偽預言者がおこなった奇跡の物語からきている；この偽預言者は、野原で山に向かって立っていた。そのまわりには、新しく帰依したもののたちがいた。偽預言者は、彼の力を見せたくて彼らにこう言った、今からお前たちは、山が自分に向かって歩いて来るのを見ると。しかし、当然ながら山はびくとも動こうとはしなかった。すると、偽預言者は、力強く何かを唱えながら山のほうに歩きだし、山に着いた。それを見ていた狂信的な帰依者たちは超自然的な行いを見たと確信したのであった—スバルビィ）が収載されている。また、バロス諺集には、異表現の“Ya que la montaña no viene a mí, iré yo a la montaña. 山がわたしのところに来ないので、わたしが山に行こう”が見られる。
- “Agua—水と molino—水車”の組み合わせで、よく使われているいい回しがある；

“llevar el auga a su molino—自分の利益ばかりを図る（我が田へ水を引く）”

1714. Ya que no seas casto, sé cauto.

節操を守れないなら 慎重であれ

- 罪を犯すことがやめられないならば、せめてスキャンダルだけは避けねばならぬということ。（パロス）
- 一般的に人というものは、他人の悪口、うわさ話が好きである、それを裏付ける諺には次のようなものがある；“El bien suena, y el mal vuela. よい噂は響くだけだが、わるい噂は舞い上がる”（悪い噂は、すぐに人の口から口へ伝わるものである—筆者の諺辞典、諺 140 を参照），“La mala fama vuela como ave y rueda como la moneda, y la buena, en casa se queda. 悪い評判は、鳥のように舞い上がり、コインのように転がる、だけど、良い評判は、家にじっとしている”（他人のよい話しは、嫉妬心をかきたてるので、話題にも出さないが、悪い話しかか不幸な出来事は、ぱつと伝わる—同諺辞典、諺 789 を参照），“La mala nueva, presto llega. 悪い知らせは、すぐ届く”（悪いニュースなら、それを言い触らすおしゃべり屋には事欠かない—同諺辞典、諺 793 を参照），“Muy presto llega a la puerta el que trae mala nueva. 悪いニュースを持ってくる者は、すぐにドアに着く（悪いニュースは、すぐ届く）”（同諺辞典、諺 1014 を参照）など。
- 見出しの諺と類義の諺には，“Hay que quemar la casa sin que se vea el humo. 煙が立たぬように、家は燃やさなければならぬ”（内輪の恥は、隠さなければならぬ—同諺辞典、諺 661 を参照），“Llorar a boca cerrada y no dar cuenta a quien no se le da nada. 口を閉じて泣きなさい、何もくれない人に気づかれないように”（内輪の不幸とか悪いことは、外にもらすべきではない—同諺辞典、諺 783 を参照），“Quémese la casa sin que se vea el humo. / Quémese la casa y no salga humo. 煙が外に出ないように、家を燃やせ”（特に、奉公人などを叱る場合には、騒ぎ立てたり、スキャンダルになるようなことは避けるべきである—同諺辞典、諺 1384 を参照），“La ropa sucia, en casa se lava. 汚れ物は、家の中で洗う”（プライベートな事柄は、公にすべきではない—同諺辞典、諺 1489 を参照）などがある。
- この世では、何事も“口から出れば世間”である、特に“好事門を出でず悪事千里を行く”、“他人の不幸は雁の味”がする故に、内輪の不幸、恥、悪事などは、なるだけ

隠すべきである。

1715. Yegua cansada, prado halla.

疲れている雌馬には 牧場がある

- どんなに困窮していようとも、何らかの救いの手だてが見つかるものである。(パロス)
- コレアス諺集には、次の異表現 “Yegua apeada, prado halla. つながれた雌馬には、牧場がある” が見られる。
- 類義の諺には、“Dios aprieta, pero no ahoga. 神は、しめつけはするが、絞めはしない”(どんな困難な状況にいようとも、そこから抜けだすための何らかの手だてはあるものである—筆者の諺辞典、諺 424 を参照)、“Dios, que da la llaga, da la medicina. おできをくれる神が、薬もくれる”(逆境にいても、救いの手がさしのべられることを期待して絶望してはならぬ—同諺辞典、諺 425 を参照)、“Donde una puerta se cierra, otra se abre. 捨てる神あれば、助ける神あり”(一方で見捨てられても、他方では助けられる—同諺辞典、諺 448 を参照)、“No da Dios a nadie más frío de como anda vestido. 神は、誰にも身につけている以上の寒さをお与えにならない”(逆境にいようとも、希望を捨てずに耐えなければならぬ—同諺辞典、諺 1069 を参照)、“A lo más oscuro, amanece Dios. 一番暗い場所に、神が夜を明けて下さる”(同諺 1069 を参照)、“No desesperes de auxilio divino, ni de la mujer de tu vecino. 神の救いや、隣のおばさんの助けをあきらめるな”(どんな不運にも神を信じて耐えれば、思いがけない救いに恵まれるだろう—同諺辞典、諺 1073 を参照) などがある。
- 類義の日本の諺には、“月夜も十五日、闇夜も十五日”、“地獄に仏”、“捨てる神あれば拾う神あり” などがある。

Z

1716. Zapatero, a tus zapatos.

靴屋は 靴にかかわってあればよい

- 人は、それぞれ自分の仕事に従事すべきであると忠告している。(パロス)
- コレアス諺集には、次のように異表現が見られる；“Zapatero solíades ser; volveos a vuestro menester. 靴屋だったんだから、靴屋に戻りなさい” (人は誰でも、自分の知っていることや、精通していることにかかわってあればよい)，“Zapatero solía ser, y volvíme a mi menester; o tornéme a mi menester. わたしは靴屋だったから、靴屋に戻った”，“Tornaos a vuestro menester, que zapatero solíades ser. 靴屋は、靴屋に戻ればよい” (人は、自分がよく通じていることにかかわってあればよい、また、よく知りもしない他人の事に余計な口を挟むなという意—筆者の諺辞典、諺 1652 を参照) など。
- スバルビィ諺辞典によると；“この諺は、自分の領域から逸脱することなく、自分の知っていること以外はあれこれ批判するなと忠告している。これは、大プリニウス (古代ローマの博物学者、22/23 年—79 年—筆者) が、博物誌 (77 年) で書いた次の逸話からきている。ギリシャの最も高名な画家の一人であるアペレス (紀元前 332 年—329 年、大プリニウスは、この画家を非常に高く評価している—筆者) は、自分の作品に非常に厳しかったので、他人が批評するのを無視するようなことはしなかった。それで、いつも広場に画板を立て、自分はその後ろに隠れて、見物人がいろいろ批評するのを聞いていた。或る日、たまたま通りかかった靴屋が、全身の肖像画に描かれていたサンダルの出来具合を辛辣にこきおろした。アペレスは、自分の間違いを認め、それを後で描き直した。翌日、同じ靴屋がそこを通りかかって、自分が前日言った通りにサンダルが描き直してあったことに得意になり、肖像画の他の部分をあれこれ批評し始めた。そこで、アペレスは、隠れていた場所から飛びだして、こう叫んだ、
<Ne sutor ultra crepidam. 靴屋は、靴にかかわってあればよい>” また、イリバレン (格言の由来) によると、フリラス公爵が書いた本 (Deleite de la discreción y fácil escuela de la agudeza, Madrid, 1764 年) には、アペレスの答えが、次のよう

に記されているという、“<何故、靴屋が人物の顔を悪評するのか？靴がうまく描かれていますと言うなら、それは、靴を作るのがあなたの仕事だからよいが、わたしは、靴をどうやって切断するかについては口出ししませんよ。>”

- 類義の諺には、“Cuida de tus duelos y deja los ajenos. 自分の頭の蠅を追い、他人のことに干渉するな”（筆者の諺辞典、諺 362 を参照），“El que las sabe, las tañe. 鐘は鳴らせる者が、鳴らすがいい”（ある事に精通している者だけが、関わるべきで、そうでない者は口を挟むなということ—同諺辞典、諺 482 を参照）などがある、その他の類義の諺については、筆者の諺辞典、諺 1652 を参照して下さい。
- 余計なお節介はするなという戒めの諺には“人の頭の蠅を追うより己の頭の蠅を追い”、“他人の疝氣^{せんき}を頭痛に病む”などがある。また、何事もその道の専門家に任せよ、そうでない者は、余計な口出しはしないほうがよいという諺には、“船に乗れば船頭に任せ”、“海の事は漁師に問え”、“餅は餅屋”、“田作る道は農に問え”など、その他多数ある。

1717. Zorra (La) mudará los dientes, mas no las mientes.

雌狐は 歯が生え変わっても 心は変わらない

- 人は、年とともに外観は変わるが、性格、品性、習慣、癖などは変わらないというたとえ。
- 同義の諺には、“Aunque muda el pelo la raposa, su natural no despoja. /El pelo muda la raposa, mas el natural no despoja. 狐は毛が生え変わっても、性格は変わらない”（筆者の諺辞典、諺 110 を参照），“Genio y figura, hasta la sepultura. 人間の本性は、墓場まで”（人の本質、気性は変わらない—同諺辞典、諺 616 を参照），“El lobo muda de pelo, mas no el celo 狼は毛が生え変わっても、性質は変わらぬ”（同諺辞典、諺 745 を参照），“Muda el lobo los dientes, y no las mientes. 狼は歯が生え変わっても、心は変わらない”（同諺 745），“Pierde el lobo los dientes, mas no las mientes. 狼は歯がなくなっても、心はそのまま”（歳をとると、人の外観はどんどん変わるが、本性は死ぬまで変わらないというたとえ—同諺 745）などがある。
- 同義の日本の諺でよく知られているのは、“三つ子の魂百まで”であろう。その異表現には“三つ子の魂八十まで”、“三つ子の知恵百まで”がある。面白いたとえには“頭禿げても浮気は止まぬ”、“産屋の癖は八十まで治らぬ”、“跳ねる馬は死んでも跳

ねる”などであろう。ともかく、生まれつきの人間の性格、癖などは死ぬまで直らないことをおしえてくれる諺である。

1718. Zorra (La) no se anda a grillos.

雌狐は コオロギを追いかけない

- 人は、本能とか自分の関心事に従うものである。(バロス) 人は、自分にとってより有利な事柄を求めるべきであるというおしえ。(筆者)
- コレアス諺集には、次の異表現 “La zorra no se anda a grillos; o que se anda a grillos. 雌狐は、コオロギを追いかけない、或は、コオロギを追いかける” (人はそれぞれ、自分の有利な取引をするものである；有利な取引をしない—コレアス) がある。類義の諺には “La zorra va por el mijo y no come; mas dale con el rabo y sacude el grano. 雌狐は、キビを探すが食べはしない、だけどしっぽで粒をはたく” がある。
- コバルピナス (宝典) は、Hernán Nuñez (1470—1553 年, El Comendador Griego としてよく知られているスペイン人でラテン語、ギリシャ語に精通していたヒューマニスト。彼のラテン語名は、Fredenandus Nunius Pincianus) を引用して見出しの諺の異表現を次のように説明している；“<Quando la zorra anda a caça de grillos, no ay para ella ni para sus hijos. 雌狐が、コオロギを捕らえても、自分のも、子供たちの分もない>これは雌狐のお伽話からきている：或る日のこと、コオロギを捕まえようとした。自分の下にいると思ったら、別の場所で鳴き始めた、このようにして一晩中、コオロギを追いかけてすっかり疲れ果ててしまったので、とうとうあきらめて止めてしまった。”
- 上記のお伽話の狐のように、“骨折り損の草臥れ儲け” (一生懸命骨折って苦労したのに、全く何の効果も利益もあがらず、結果的に疲労困憊しただけであるということ) にならないように、初めから結果を予想して、自分の利益にならないようなことには手を出すべきではない。同じように“労して功なし”，“犬骨折って鷹の餌食”，“灯心で竹の根を掘る” などとも言う。

1719. Zorrilla que mucho tarda, caza aguarda.

獲るのに 時間がかかる狐は
じっと待っている

- 事業を立ち上げようと計画している者は、実行する前にじっくりと考えて決して急いではいけない。(バロス)
- 何事も成功させるためには、十分に準備を整え、あせらず時間をかける大切さを謳っている類義の諺には“Castillo apercebido, no es sorprendido. 用意万端の山城は、不意打ちされぬ”(筆者の諺辞典、諺 227 を参照)、“Hombre prevenido vale por dos. 用心深い男は、二人分の価値がある”(同諺 227 を参照)、“Las cosas bien pensadas, bien acertadas. 上手な思案の末に、はずれなし”(失敗しないためには、熟慮することが大切である—同諺辞典、諺 310 を参照)、“Hombre apercebido, medio combatido. 用意万端整える者は、半分勝ったようなもの”(実行に移す前の準備、忍耐などがいかに大切であるかを言う—同諺辞典、諺 684 を参照)などがある。同じ狐でも、抜け目のない狐を謳っている次のような諺がある；“Zorrilla tagarnillera, hácese muerta por asir la presa. 狩りをする狐は、獲物を捕らえるために死んだふりをする”(Zorrilla tagarnillera—zorrilla lagartijera—トカゲを捕食する狐、或は、zorrilla grillera—コオロギを捕食する狐—コレアス諺集)
- 見出しの諺は、何事も欲するものを手に入れるためには、時機をうかがい、辛抱強く待つことが大切であるという。“いそがば廻れ”，“辛抱する木に金がる”，“牛の歩みも千里”，“石の上にも三年”などの諺は、大きな成果をあげるための極意を教えてくれる。

1720. Zorros en zorrera, el humo los echa fuera.

穴の中にいる狐 煙が外に追いだす

- 悪党から自由になるためには、その目的に適った手段を選ぶしか方法がない。(バロス)
- 比喩に使われている“Humo—煙”については、こういう諺もある；“Humo y gotera y la mujer parlara, echan al hombre de su casa fuera. 煙と雨もりと怒鳴る女房が、亭主を家から追いだす”(筆者の諺辞典、諺 700 を参照)、“Humo y mala

cara sacan a la gente de casa. 煙と不機嫌な顔が、人を家から放りだす” (同諺 700),
“Humo y gotera, y mujer brava, echan al hombre de su casa. 煙と雨もりと威張った女房が、亭主を家から追いだす” (同諺 700) など。

BIBLIOGRAFÍA BÁSICA EN ESPAÑOL UTILIZADA
EN EL REFRANERO ESPAÑOL

- ACADEMIA ESPAÑOLA. “Diccionario de la lengua española” Madrid, Espasa Calpe, S.A., 1971, 1983.
- BARROS, Alonso de. “Refranero español” Madrid, Ediciones Ibéricas, 1968.
- CERVANTES, Miguel de. “Don Quijote de la Mancha” Textos y notas de Martín de Riquer, Barcelona, Editorial Juventud, S.A., 1969.
- CORREAS, Gonzalo. “Vocabulario de refranes y frases proverbiales” Madrid, TIP. De la Revista de archivos, bibliotecas y museos”, 1924.
- COVARRUBIAS, Sebastián de. “Tesoro de la lengua castellana o española” Barcelona, Horta de impresiones y ediciones, 1943.
- DIOS HABLA HOY. La Biblia con Deuterocanónicos. Nueva York, Sociedad Bíblica Americana, 1979.
- IRIBARREN, José María. “El porqué de los dichos” Madrid, Aguilar, 1974.
- MANUEL OLIVER, Juan. “Diccionario de argot” Madrid, Editorial Sena, 1985.
- MOLINER, María. “Diccionario de uso del español” Madrid, Editorial Gredos, 1970.
- NUEVO TESTAMENTO. Tokyo, The New Interconfessional Translation, 1994.
- REAL ROJAS, Fernando de. “Celestina” Madrid, Ediciones de Bruno Mario Damiani, Cátedra, 1984.
- SBARBI, José María. “Diccionario de refranes, adagios, proverbios, modismos, lecciones y frases proverbiales de la lengua española” (Tomo I y II) Madrid, Librería de los sucesores de Hernando, 1922.
- SBARBI, José María. “El libro de los refranes, colección alfabética de refranes castellanos” Madrid, Librería de D. León Pablo Villaverde, 1872.

BIBLIOGRAFÍA BÁSICA EN JAPONÉS UTILIZADA
EN EL REFRANERO ESPAÑOL

- セルバンテス作, 永田寛定訳
“ドン・キホーテ” 正編一, 二, 三, 続編一, 二, 岩波文庫, 1993 年
- セルバンテス作, 高橋正武訳
“ドン・キホーテ” 続編三, 岩波文庫, 1993 年
- セルバンテス作, 牛島信明訳
“ドン・キホーテ” 後篇一, 二, 三, 岩波文庫, 2001 年
- フェルナンド・デ・ローハス作, 大島正訳
“魔女セレスティナ” 白水社, 1975 年
- 御木光治著
“類別ことわざ辞典”, 文進堂, 1958 年
- 小学館編
“ことわざの読本”, 小学館ライブラリー 76, 小学館, 1995 年
- 鈴木棠三編
“続 故事ことわざ辞典”, 東京堂, 1973 年
- 戸谷高明監修
“故事ことわざ活用辞典”, 創拓社, 1993 年
- 時田昌瑞著
“岩波ことわざ辞典”, 岩波書店, 2000 年
- 牛島信明著
“ドン・キホーテの旅 神に抗う遍歴の騎士” 中公新書, 2002 年
- 室井光広
評論 “「ドン・キホーテ」私註” 群像 11 月号, 2004 年
- 聖書, 新共同訳, 日本聖書協会, 1991 年
- 日西対照 新約聖書, 日本語; 新共同訳 スペイン語
日本聖書協会, 1994 年
- 西和中辞典, 小学館, 1976 年